

日本建築学会北海道支部
2004年度 通常総会

日時 2004年5月21日(金)
会場 北海道立道民活動センタービル(かでの2・7)

日本建築学会北海道支部

日本建築学会北海道支部 2004 年度総会議案

2003 年度事業報告

1 . 支部運営の諸会合の開催

総会

期日 2003 年 5 月 16 日

会場 北方圏センター国際会議場

出席正会員 37 名 (委任状 72 通)

当支部地域在住正会員 939 名の 30 分の 1、31 名以上の出席により成立
2002 年度事業報告及び収支決算、ならびに 2003 年度事業計画方針案及び予算案を審議し、
異議なく可決承認された。

常議員会

6 回開催

常任幹事会

14 回開催

選挙管理委員会

1 回開催

2 . 学術系委員会の活動

2 . 1 学術委員会 (主査：星野 政幸君 委員数 16名 委員会開催数4回)

主な活動状況を、委員会の議題などで要約する。

第 1 回目 (5 月 27 日); 本部学術推進委員会報告 (以下 本部報告) 各専門委員会及び特定課題
研究委員会の活動状況の報告、支部研究発表会の進捗状況の報告

第 2 回目 (10 月 6 日); 本部報告、各専門委員会の活動状況の報告、支部研究発表会の総括と次
年度の開催校 (札幌市立高専) の決定、大賞候補者の選考

第 3 回目 (12 月 22 日); 本部報告、各専門委員会の活動状況の報告、建築文化週間の報告及び来
年度の募集について、特定課題研究の募集について、支部研究発表会の論文募集要項に
ついて、大会の準備状況について

第 4 回目 (3 月 1 日); 本部報告、各専門委員会及び特定課題研究委員会の活動状況の報告、次年
度の建築文化週間の採用審査、次年度の特定課題研究の採用審査、支部研究発表会の進
捗状況、大会の準備状況について、平成 17 年度の支部研究発表会の開催校について

2 . 2 専門委員会の活動

材料施工専門委員会 (主査：名和 豊春君 委員数 21 名 委員会開催数 5 回)

本年度は、専門委員会を2ヶ月に1回程度の割合で、計5回開催した。委員会では、本部材料施工
本委員会など各種委員会報告や諮問事項について検討し、材料・施工に関する情報や意見の交換
を行った。また、興味ある話題や今日的な話題について事前に担当者を決め報告をしていただき、
最近の研究動向について意見の交換を行った。

2003年6月16日に北海道大学学術交流会館において「鉄筋コンクリート造建築物の収縮ひび割れ
メカニズムと対策技術の現状」講習会を開催し、61名の参加者があった。また、2003年10月14
日には、外壁に外断熱PC板を用いた「深川市立総合病院改築建築工事」施工現場の見学会をお
こない、11名の参加があった。

道内巡回講演会の実施。2003年12月17日に美唄工業高校に赴き、建築科1,2,3年生60名を対象に
「最近の建築施工」について講演を行った (講師：三浦裕悦委員)。

構造専門委員会（主査：武田 寛君 委員数 20 名 委員会開催数 4 回）

1. 講演会

平成 15 年 5 月 27 日（火）13：30～17：00 北海道大学学術交流会館
講演テーマ「建築・社会基盤構造物の最近の話題」参加者数 69 名

2. 現場見学会

1) 平成 15 年 7 月 9 日（水）14：30～「新伊藤ビル新築工事」札幌駅北口。

地上 9 階、地下 1 階。SRC 造。高減衰積層ゴムを設けた免震構造。参加者約 80 名。

2) 平成 16 年 3 月 9 日（火）14：00～「JR 琴似駅北口地区第 1 種市街地再開発事業施設建築物」
RC 造地上 40 階、地下 1 階。最高高さ 135.6m 分譲住宅 214 戸。

柱・梁ハーフ PC。コンクリート強度 70N/mm² 参加者数 42 名

3. 特定課題研究

1) 「北海道内の高専・工業高校に対する建築鉄骨技術教材の提案」 代表 田沼 吉伸

日本建築学会北海道支部研究報告集に発表、Vol.76、2003.6 pp423～430（終了）

2) 「外壁の外側に設置された軸組みブレースの積雪被害に関する実態調査」代表 苫米地 司
研究期間 2003 年 4 月～2005 年 3 月の 2 年間

4. 道内高校巡回講演会

「超高層建築の構造デザイン」 田沼吉伸 10 月 19 日 10：00～ 旭川工業高校

5. 都市防災専門委員会と合同委員会開催 12 月 11 日 合同懇親会実施

環境工学専門委員会（主査：福島 明君 委員数 25 名 委員会開催数 6 回）

委員会としてシックハウス対策、環境教育、省エネルギー、室内安全、雪と昼光利用など多彩なテーマを設定し活動を行った。7 月 8 日シックハウス対策に関して、研究者向けのワークショップを行い、絵内君から、「換気研究とシックハウス新法を考える」と題した報告と意見交換を行った。2002 年度末に実施したシンポジウム「地域・環境・建築・人間 - 自然からちょうだいする -」を受け、環境教育をテーマに建築文化週間の企画を北方建築総合研究所と共催で実施した。「こどもたちへ - 環境きょういく - 北海道立北方建築総合研究所を素材にした実践的プログラムの試行・提案 -」のテーマの下に、2003 年 10 月 25、28 日の両日、こどもたち 153 名を含む 320 名の参加者を得て、一般の親子を対象としたパビリオンの公開と、指導者を対象としたセミナー、及びクラス単位の授業の一環として、パビリオンでの体験学習を行った。2003 年 12 月 18 日、北海道建築診断研究会と共催で、省エネルギー建築診断に関する講演会を開催したほか 2004 年 8 月に予定されている建築学会大会の研究集会に向け、環境建築と環境教育を題材にしたテーマ設定などを行った。

建築計画専門委員会（主査：門谷 眞一郎君 委員数 21 名 委員会開催数 4 回）

ネットワークの活用、主に WWW サーチによるフィールドワーク「特色ある住民参加型の建築計画事例の発掘」を中心テーマに委員会活動を展開中。

2003 年 7 月 12 日（土）～13 日（日）、本部建築計画委員会と共催で 2003 年度建築計画委員会春期学術研究会、「札幌の大規模屋内集会施設と北の建築・生活・文化」 - 札幌ドームとガラスのピラミッドの計画・デザインをめぐって - を開催し、見学会とシンポジウムを行った。

道内巡回講演会の実施

演題 「一枚の CD-ROM と USB メモリーでつくる建築計画・設計の自習環境」

講師 門谷 眞一郎 北海道東海大学

都市計画専門委員会（主査：瀬戸口 剛君 委員数 15 名 委員会開催数 5 回）

都市計画委員会では北海道内の都市で大きな課題となっている、コンパクトシティとまちなか居住に関する研究会やシンポジウムを一貫して続けている。平成 15 年度は、札幌市と共催で「まちなか住まいを考える」シンポジウム、北海道主催の「北方型住宅セミナー」（後援）を行った。また、都市計画の職能のあり方を中心とした研究会「まちづくりプラットフォーム」を立ち上げ、すでに 4 回行っている。これには委員のみならず建築学会会員外も参加している。

本委員会の中から 3 名が、本部都市計画委員会で開催した「中心市街地再生と持続可能なまちづくり」の出版事業に参加し、寄稿している。

歴史意匠専門委員会（主査：羽深 久夫君 委員数 20 名 委員会開催数 5 回）

2003 年度も、道内各地における歴史的建造物の現状把握と発掘、及び保存・活用に関する情報交換を積極的に行い、社会や住民へ広く貢献することを目的に活動を行った。委託研究は、2002 年度から継続している「稚内市歴史的建造物基礎調査」として、稚内市内の歴史的建造物の悉皆調査と煉瓦造の旧海軍通信施設他の補足調査を行い、『2003 年度稚内市歴史的建造物基礎調査報告書』としてまとめた。建築文化週間には見学会「空知地方における歴史的建造物の再生事例をたどる」を北海道空知支庁経済部の協力のもと 10 月 18 日（土）に行い、63 名の参加を得た。6 月には「建築家・林雅子展 / 札幌」の開催に協力した。建築歴史・意匠本委員会の歴史的建築リスト整備活用小委員会が全国的に進めている歴史的建造物のデータベース作成における北海道分を継続して進めた。

北方系住宅専門委員会（主査：絵内 正道君 委員数 23 名 委員会開催数 5 回）

当委員会は、共有のくらしを主テーマにして、「北の新しいライフスタイル」、「地球環境を考えた住宅の間取り」、「徒歩生活圏のまちづくり」などの小テーマを設けてそれぞれ研究活動を行っている。これらはいずれも、これからの時代の北国の住まいのあり方を考えて行く場合に欠かせないライフスタイルの問題を扱う大事なテーマ群として位置付けられている。また本年行った大きな活動としては、日本建築学会北海道大会で予定されている支部企画による PD 当委員会発案、地球環境委員会・建築計画委員会・環境工学委員会共催）の企画案の検討作業を実施した。PD 企画案は既に本部学術推進委員会に提起され、当委員会提案どおり了承されている。その実施に向けて各委員会から推薦された委員（パネラー等）による実行委員会が設けられ、次年度に作業が継続される予定である。

都市防災専門委員会（主査：岡田 成幸君 委員数 21 名 委員会開催数 2 回 別途 WG 複数回開催）

今年度の支部特定課題（支部研究補助費）に採択された「有珠火山周辺地域における住宅移転策の防災・コミュニティ形成・まちづくり計画からの考察」を推進するため「有珠山防災まちづくり計画研究委員会」を発足させ、活動を開始した。

2003 年 9 月 26 日に発生した十勝沖地震調査の実施調整にあたった。

北大～テキサス大学健康科学センターとの大学間協定（招へい事業）に協賛し、公開研究会（災害下における死者発生に関する要因分析と軽減化のための学際的公開研究会；2004 年 2 月 25 日）に参画した。

次年度建築大会記念行事・「ささえる - まちの安全 in 釧路」の企画・調整を進めている。

2.3 特定課題研究委員会の実施

（2002 年度より）

北海道住宅工社庁・消費実態調査研究会（主査：藤原 陽三君 委員数 4 名 委員会開催数 2 回）

近年、高断熱・高气密住宅の普及が著しいが、暖房空間の広がりや室内温熱環境の安定化や、それらによる住まい方の変化などにより、暖房用等のエネルギー消費が減少しない傾向がみられる。本研究では、(財)北海道消費者協会・石油連盟によって実施されている本道の住宅用エネルギー消費実態アンケート調査結果などをもとに、道内の住宅におけるエネルギー消費実態を把握し、本道のエネルギー消費の大きな部分を占める住宅用エネルギー消費に関する省エネルギーの方向性を明らかとすることを目的とした。

調査の結果、北海道の住宅では、地域差はあるが、概ね、冬期の外気温度とエネルギー消費量の相関が強く、外気温度が高いほどエネルギー消費が少なくなる傾向が見られた。また、比較に用いた長野地域の実測結果では、北海道の住宅に比べ室温が低く設定されており、北海道の半分程度の灯油消費量となっていた。これらのことから、北海道においても室温を低くするなど、外気との温度差を小さくすることや、建物性能をさらに向上させることが、省エネルギーを図る上で重要であることが確認された。また、経年的な傾向として、建設年代が新しいほど、世帯当りのエネルギー消費量が多い世帯が増えていることが分かった。これは、融雪など多様なエネルギー消費のためと考えられ、このようなエネルギー消費に関しても、省エネルギーの方向性につい

て検討する必要があることが、今後の課題として挙げられた。

2004年度日本建築学会大会（北海道） 発表予定

積雪地昼光利用研究委員会（主査：斉藤 雅也君 委員数7名 委員会開催数2回）

北海道における昼光利用について、積雪障害防止、積雪面反射光の活用を考慮しつつ、積雪寒冷地独自の昼光照明システムの開発に資するため、以下の検討を行った。

1) 国内外の現代建築における昼光照明事例の文献調査を行い、現在の昼光利用システムの特徴を明らかとし、建物の開口部の形態を類型化した。

2) 積雪時と無雪時における室内の光量の測定から、積雪面反射光活用の有効性を明らかにした。また、1)で類型化した昼光利用システムの代表的な開口部について、模型実験により採光性能把握のための検討を行った。

3) 積雪地を想定し、窓形態の違いが室内の光環境（水平面照度）と在室者の主観による家具配置に与える影響を被験者実験から明らかとした。

4) 積雪面反射による室内導入光の色温度への影響を屋外における実測から検討した。

5) 窓からの採光が室内光環境の与える影響、ひいては昼光利用の基礎概念を簡易に学習するための、学生向け照度分布シミュレーションソフトを開発した。

6) 1)～3)で得られた知見に基づき、住宅を想定した昼光照明（積雪光利用を含む）システムの提案を行なった。

7) 研究発表

「窓の形態が家具配置に与える影響に関する研究」宮川紅子、斉藤雅也、那須聖

日本建築学会北海道支部研究報告集、PP.309-312、2003/6

8) 日本建築学会北海道支部2004年度報告会において報告予定

（2003年度より）

鉄骨軸組ブレース被害調査研究委員会（主査：苫米地 司君 委員数4名 委員会開催数3回）

鉄骨軸組ブレース被害調査研究委員会では、外壁の外側に配置された軸組ブレースの積雪被害に関する実態調査を実施した。実態調査は、旭川市、石狩市、倶知安町、ニセコ町、蘭越町に建設されている体育館、倉庫の13施設を対象とした。その結果、多くの建物でブレースの変形や破損が確認された。これらの測定結果と積雪深との関係を検討し、ブレースに作用する積雪沈降荷重を構造解析により推定した。さらに、実大の屋外試験体を製作し、この試験体を人為的に雪に埋没させて積雪状況の変化とブレースのひずみとの関係を連続的に観測中である。

都市・建築の安全性評価研究委員会（主査：羽山 広文君 委員数5名 委員会開催数3回）

住宅において、心疾患及び脳血管疾患の発症は浴室で多くみられ、その数は冬期に顕著となっているが、その実態は明らかとなっていない。本研究では、自治体が保有する救急搬送データの記録を入手・分析し、都市や建築に関わる傷病の発生個所、発生時期・時間、その種類、容態の程度などを調査分析し、傷病の発生と住環境の関係を明らかにする。また、これらの結果を用い、安全と健康に配慮した都市・建築の環境計画の提案を目的に実施する。2003年度の実施項目を以下に示す。

1) 救急搬送データを収集し、各自治体のデータ構造の比較

2) 各地域の外気温、天候などの気象データの収集

3) 入浴死に着目し各主要因の分析・評価

4) 浴室・脱衣室及び浴槽内の温度を実測調査し、その特性の分析・評価

2.4 本部からの支部助成金による研究委員会の実施

（2003年度より）

有珠山防災まちづくり計画研究委員会（主査：岡田 成幸君 委員数8名 委員会開催数2回 複数回通信開催）

火山災害による建物被害評価については、2000年有珠山噴火による建物被害調査データをもと

に噴石及び地殻変動と建物被害の因果関係分析を行った。

住宅移転支援策とコミュニティ形成については、北海道の住宅移転支援事業の法制度及び事業内容の分析を行うとともに地元市町の復興計画方針を把握した。

火山災害を軽減するための防災まちづくり計画については、土地利用ゾーニングと建物の復旧・復興状況との関係を把握するため移転施設の事例調査を行った。

3. 委託調査研究の受託

契約年月日	委託調査研究名	担当委員会（代表者）	委託者
2003.8.8	稚内市歴史的建造物基礎調査業務	歴史意匠専門委員会 （主査 羽深久夫君）	稚内市

受託の概要

(1) 稚内市歴史的建造物基礎調査業務（受託金額：1,000,000円）

稚内市内に残されている歴史的な建造物群の現地調査、実測調査により、所在・概要・保存状況等のデータ収集を行い記録すると共に、将来の文化財としての評価を行い報告した。

4. 支部研究発表会の実施（主査：角 幸博君 委員数19名 委員会開催数 6回）

2003年度の委員の任期は、2002年7月2日(第75回研究発表会翌日)～2003年6月28日(第76回研究発表会最終日)である。以下の報告は、上記期間における委員会報告である。

1) 第76回支部研究発表会日程と会場の決定

(2003年6月27日、28日、北海道立北方建築総合研究所)

2) 支部研究発表会の論文原稿種別、発表形式の確認と決定

3) 論文執筆要領の作成と原稿募集記事の建築雑誌掲載

4) 特別企画のテーマ募集及び特別企画テーマの選定

5) 論文原稿の受付・編集作業の実施、研究発表会プログラムの編成及び建築雑誌掲載記事の手配

6) 第76回支部研究発表会の実施及び「研究報告集No.76」の発刊

投稿原稿数 128編 (A原稿：99、B原稿：16、C原稿：11、D原稿：2)

特別企画(6月27日):「建築学と市民社会のコラボレーション」(日本建築学会北海道支部・北海道立北方建築総合研究所共催)

13:00～14:30 所内見学会

16:00～17:30 基調講演(日本建築学会副会長 佐藤 滋君)及びパネルディスカッション
(参加者数：約90名)

5. 表彰

5.1 北海道建築賞

(1) 北海道建築賞委員会の活動（主査：大矢 二郎君 委員数7名 委員会開催数6回（うち現地審査3回））

本委員会は1975年、北海道支部に表彰制度が設けられて以来、北海道内に建設された優れた建築作品の中から本賞に相応しい作品を選考してきたが、今回で第29回を迎えた。本年度は過半の委員が交代し新たな体制の下、審査に臨んだ。審査の基準は従前からの、作品が有する「先進性」、「規範性」及び「洗練度」の評価に基づき、厳正かつ慎重に行った。その結果、下に記すような結論に至った。昨年に引き続き、北海道建築賞（本賞）は「該当作なし」という残念な結果に終

わったが、その他の受賞作の概要、選考の経緯及び作品講評はリーフレットにまとめ広く公表する。

なお今回、審査を実施する中で、選考の方法や表彰の時期・形態等についていくつかの問題点や課題が指摘された。本委員会として今後、関連する他委員会や支部の各機関と調整をとり、具体的な解決策を探ることにしたい。

審査員：

主 査：大矢 二郎君

委 員：伊藤 大介君、内田 光彦君、小篠 隆生君、鈴木 敏司君、前川 公美夫君、
山田 深君

(2) 受賞者

北海道建築賞 該当作品なし

北海道建築奨励賞 齊藤 文彦君(株ドーコン)
小倉 寛征君(株ドーコン)

作品名 「豊富町立豊富中学校」の設計

北海道建築奨励賞 保科 文紀君(株アトリエブク元所員)
和田 敦君(株アトリエブク)
船場 俊星君(株アトリエブク元所員)

作品名 「エコ・ミュージアムおさしまセンター」(アトリエ3モア)の設計

北海道建築賞審査員特別賞 川村 純一君(株アーキテクトファイブ)
堀越 英嗣君(株アーキテクトファイブ)
松岡拓公雄君(株アーキテクトファイブ)

作品名 - 「モエレ沼公園 ガラスのピラミッド」の設計

(3) 審査経緯

2003年10月23日、札幌市内で開催された第1回委員会で、新・旧委員の引継をした後、新任委員の互選により主査を選出、応募要項、審査手順等の確認を行った。12月16日の第1回審査会で、本年度の審査対象作品を、応募全作品11点に、支部主催「建築作品発表会」発表作品から委員により推薦された6点を加えた計17点とし、第1次書類選考が行われた。

その結果、現地審査を含む2次審査対象作品として、以下の10点が選出された。

札幌コンベンションセンター(吉田宏、菅原秀美/株北海道日建設計、小林英嗣/北海道大学)、豊富町立豊富中学校(齋藤文彦、小倉寛征/株ドーコン)、F邸(福田真司/株久米設計、本井和彦/株竹中工務店)、真駒内六花亭ホール(古市徹雄/株古市徹雄都市建築研究所)、

IS(渡辺真理、木下庸子/設計組織ADH)、GLASS PYRAMID(川村純一、堀越英嗣、松岡拓公雄/アーキテクトファイブ)、エコ・ミュージアムおさしまセンター(保科文紀、船場俊星/株アトリエブク元所員、和田敦/株アトリエブク)、こぐまの森プレイホール ガリバー(小西彦仁/有ヒココニシ設計事務所)、ザ・ウィンザーホテル洞爺チャペル G-CLEF(川村純一、堀越英嗣、松岡拓公雄/アーキテクトファイブ)、月寒の家(川人洋志/北海道工業大学、菊池規雄/WANDER ARCHI) <以上、順不同>

その後、2004年3月31日の最終審査会までに、上記10作品を少なくとも3名以上の委員が現地で審査、その結果を最終審査会にもちよった。予め主査から各委員には推薦する作品2~3点を選考しておくことが要請され、最終審査会の協議にあたって開示されたが、少なくとも一人の委員から推薦を受けた作品は、上記10点のうち、豊富町立豊富中学校、真駒内六花亭ホール、

IS、GLASS PYRAMID、エコ・ミュージアムおさしまセンター、こぐまの森プレイホールガリバー <以上、順不同>の6点であった。以後それらを審査の主な対象とした。

続いて各作品についての推薦理由、疑問点などを確認しつつ選考作業を進めた結果、3名以上の委員から推薦のあった作品、 、 、 に選考対象が絞られた。しかし、ここから最終的な結論を得るまでには長い議論を要した。本建築賞選考にあたっての評価規準は、作品がもつ「先進性」「規範性」および「洗練度」とされている。しかし、そうした共通軸で見た上でもなお、作品に対する委員の評価は分かれた。議論は白熱、予定した時間では結論に至らず、会場を移して審議が続けられた。

特に、本賞、特別賞候補として議論の的となった「真駒内六花亭ホール」と「GLASS PYRAMID」については、共に一定の水準を超えた作品であるという点で異論はなかったものの、授賞対象とすべきか、あるいはどのような賞が相応しいかと言う点で意見が分かれた。前者については、菓子店舗と音楽ホールという対立する機能を随時転換可能にした計画のアイディア、地域の文化活動拠点として根付いている事実や洗練されたデザインを高く評価する委員と、配置計画（特に駐車場の扱い方）等、周辺環境との関係性に疑問を呈する委員との間で長い議論があった。また、後者については、彫刻家の故イサム・ノグチが札幌市のモエレ沼公園内の中核施設として、そのマスタープランに模型やスケッチで提案していたものであり、「彫刻の建築化」というやや特殊な状況をどう評価すべきかが論点になった。

最後は出席委員の表決を問うことになったが、彫刻家とのコラボレーションの中から「ランドスケープとしての建築」という新たな方向性を探りつつ、アースワークを基盤に、従来の建築の枠組みを越えようとした姿勢に多くの共感が集まった「GLASS PYRAMID」を審査員特別賞とした（因みに筆者は、こうした議論の内容が直接何らかの形で公開あるいは公表できたなら、学会のみならず、広く建築界の活性化や一般市民の建築や環境に対する関心を高める上で大いに意義あるに違いないと考えるものである）。

一方、奨励賞を受けた2作品については大方の委員に意見の一致を見た。「町立豊富中学校」は、地域コミュニティの核としても機能する中学校を、ユーザーからの多様な要求を調整しながら、中庭を囲むコンパクトな教科教室型校舎にまとめた作者の力量が高く評価された。また、「エコ・ミュージアムおさしまセンター」も、小規模ながら、地元彫刻家のアトリエであった元小学校校舎を改修し、「時間（とき）の記憶」を定着させた施設計画が今後の公共施設整備手法の好事例になると思われた。

今回は受賞を逸したが、現地審査の対象となった他の作品もそれぞれ質の高い建築であった。3点の住宅作品にもチャレンジングな試みが見られた。中でも「IS」は、南面する吹き抜けの大開口部にガラスと障子のダブルスキンを設け、室内環境の調整を図った手法に可能性が感じられた。しかしこれが寒地住宅の一つのタイプになり得るかどうかを判断するにはもうしばらく「時間」の検証が必要であろう。「こぐまの森プレイホール」は、幼稚園児の身体と精神活動に刺激を与える空間装置として、変化のあるスケール感と素材選択の的確さに作者の資質が感じられたが、やや、生硬な印象もあった。厳しい条件下、クライアントの夢に確かな空間で答えた「月寒の家」、テクノロジーに依存しすぎた嫌いがある「F邸」も力作ではあったが、他の候補作に比し、規範性という点では相対的な訴求力に欠けた。「札幌コンベンションセンター」は、多目的機能を果たす大型施設であり、随所に挿入された中庭が空間の分節によく効いているが、多用途である故か、スケール上の曖昧さが否めない。「G-CLEF」も、軽やかな空間を生み出しているが、建築の社会的な意味あるいは規範性と言う点ではやや説得力を欠いた。

最後になったが、本表彰制度の創設と運営に多大の貢献があった北海道大学名誉教授・太田実先生がこの3月逝去された。先生がこの事業に込められた思いを今後の学会活動にも生かして行くことを肝に銘じ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

（文責：大矢 二郎君）

（4）審査講評

北海道建築奨励賞 「豊富町立豊富中学校」

豊富町立豊富中学校は、地域に開かれた活動を持つ教育施設である。実現のプロセスの中で、設計者の果たす役割と成果を強く感じることができるとして評価したい。豊富町立豊富中学校は、プロポーザル方式の選定方式で設計者が特定された。条件の中では、住民参加型の設計プロセスをふむことが前提とされていた。利尻富士岳を望む、町の周縁部「緑のふちどり」に位置

する教育高齢者福祉拠点の中心施設としての計画が求められた。

系列別教科教室型の中学校としての空間構成の新しい試みも求められた。系列別の教室とホームベースが階に分節され配置される。何よりもテーマとなっているのは、教室を移動する空間の在り方である。使い手側の学校、生徒、地域住民と設計者の深い議論がなされたことが感じられる。結果としての中庭型の平面計画、サーキュレーションすることのできる中庭をめぐる導線が成功している。参加のプロセスが新しい形式のオープンスペースを多く持った教科教室型の中学校としての豊かな空間利用、生活空間の楽しさの創出に結びついている。それぞれの教科教室が、個性を持った豊かな空間に生まれ変わっていく兆しも感じることができた。

施設は教育施設であるとともに地域に開かれたコミュニティ施設としての性格を持っている。利用時間や、利用動機をフレキシブルに使い分けのできる明快な平面計画となっている。

体育館は、楕円のフォルムを持つ大きな空間である。鉄骨のハイブリッドトラスは大空間の主要構造であると同時に、活動空間としての動きのある軽快な空間を構成する大きな要素になっている。四季、とりわけ冬期の気候の厳しい地域の活動スペースとして、ランニングトラックが、楕円の平面計画と整合している。形態的にも主張しすぎずに適度な躍動感のあるフォルムを構成している。

音楽室は、利用者側の多様な動機や使われ方としての意志が反映された多目的に利用される魅力的な空間となっている。

この中学校には、生徒、教職員合わせて 200 名程の程よい密度の施設として心持良さがある。中学校というデリケートな時期を過ごす空間の構成と質が、荒れ始めていた学校の質を変えたという生徒、教職員、地域住民の評価は、創み出された建築空間の質とその実現プロセスに依るところが大きい。

雄大な利尻富士を望むサロベツ原野に対し、中学校という性格をあまりにニュートラルに捉えすぎに思える建築に対する答え方、空間のディテールや、素材の選択など、コストのしぼりの大きい施設の中での格闘は見取ることができるが、若干のもの足りなさを感じた。これから増設される給食施設やグラウンド、外構計画などの完成を楽しみにしたい。

(文責：鈴木 敏司君)

北海道建築奨励賞 「エコ・ミュージアムおさしまセンター」(アトリエ3モア)

延床面積約400㎡の小さな増改築である。彫刻家砂澤ビッキが使用していた住居兼アトリエが、彼の記念館として再生された。元来この建物は旧箴島小学校校舎として昭和10年に建設されたものであり、70年近い長い年月を経ている。増築はわずかにエントランスを含めた下屋部分に止め、建物の原形がほぼそのままの形で残されている。

日本の最北端に近い音威子府村は、北海道において最も人口の少ない村であり、冬期の厳しい豪雪地帯としても知られる。四方を山に抱かれ、集落というにもいささか寂しいほどにわずかに住居などが点在する風景の中に、納屋か何かのように素っ気なく溶け込んでこの建物はある。小さな増改築ではあるものの、それ自体は一般的には決して保存対象とはならないであろう質素な建物を対象としながら、地域の小学校としての記憶をも残しつつ、強烈な個性を放ったビッキの記念館としていかに再生させるかという、難しいプログラムであったと思われる。ここでは小学校校舎としての平面をビッキのアトリエを含めて基本的に残しながら、展示空間としてのサーキュレーションをまずつくり出している。廊下や教室等というプロポーションの大きく異なる空間の強弱を利用しつつ、各々にビッキの作品に対応した多様な空間がつくられている。素材はビッキの愛した木を主として、適所に鍍鉄板が用いられるだけに限定され、ビッキの思想と作品とに向き合う陰影ある空間となっている。一方で、例えばかつての子供達の残した落書きなども小学校の記憶として残されており、どこまでが保存され、また新たに手を加えられたのが半ば判然としないかのように、ある種曖昧な状態として全体が成立している。

一般に増改築において建築家は、残すべき既存部分と新たに手を加える部分とを明確化することによって、対比と調和との振幅の間において、その関係性を強く表現しようとする傾向にある。それは増改築という条件での、建築の新たな形式や手法を発見していく上での必然でもあり、そこに我々は設計者の思考を容易に読み取ることができる。このような観点から見れば、ここには改修に対する建築としての強い形式や表現があるとは決して言えないかもしれない。しかしここ

での設計者は、既存の状況を丁寧に読み込み、決して過剰にならずにさり気なく各々の部分に手を加えることによって、小学校とピッキという二つの記憶に柔軟に応える全体をつくり出すことに成功しているように思われる。

様々な条件においての、建築家の関わるスタンスについて再考を促すような小品である。

(文責:山田 深君)

北海道建築賞審査員特別賞 「モエレ沼公園 ガラスのピラミッド」

長い年月をかけて少しずつつくりあげてきたプレイグラウンド、アースワーク。これが「ガラスのピラミッド」の背景に存在し、この建築に特別な意味を与える。建築が先にあるのではなく、ランドスケープの中の一要素として建築が存在する、今までの建築と狭い意味での外構という関係ではない。そのことがかえてこの作品の新しさとして感じられる部分になっている。

それは、空間の構成によって明らかになる。建築としての機能諸室は、GL+6m レベルの台地の下に配置され、GLと同じレベルのエントランスから公園の動線の一部としてアトリウム、アトリウム内のGL+6m レベルの人工地盤的な広場、さらには上階の展示空間や公園を一望する屋上展望スペースへの連続性によって、様々な発見的体験を人々にもたらす。このことは、この作品の優れて評価すべき部分であり、建築がランドスケープの中で存在することによって表出する空間の連続性や空間という物的要素をデザインするだけでなく、その中で展開されるアクティビティ自体をデザインするという新たな建築デザインの方向性を示している。

形態と素材についても大きな特徴がある。非線形な彫刻的形態を持つガラスのピラミッド部分は、見る角度によって違うかたちに見える。1つの方向からの視線を意識してつくられたのではなく、公園という回遊動線の中で様々な視線から形を変えながら意識されるという狙いが見事に実現している。それが周辺のもエレ山、中央噴水などと呼応しながら1つの風景をつくりあげている。この変化は、外観だけではない。南面の斜めのガラス部分から差し込む光は、アトリウムの1F吹き抜け部分に柔らかく降り注ぐ。それに対し、アトリウム2Fの広場に面した北側の垂直なガラスを通して見えるプレイマウンテンなどの光景は、広大な公園に1つのフレーミングをしたようにシャープな風景を切り取ってみせる。このように1つのアトリウムに2つの異なる場が組み合わせられて設けられ、それが一体につながっているところがこの作品の魅力である。一方、建築を構成する素材の用い方についても特徴がある。非線形のガラスのポリウムに貫入する変形直方体には黒発色ステンレスパネルが用いられている。この組み合わせは、「あわせ」と呼ばれるイサム・ノグチのモチーフの具現化であり、ガラスとステンレスパネル、さらには庵治石積みといった異なる素材が直接的にぶつかりながらつくられるコンポジションは、建築的な修辞とは異なった固有の場の感覚をつくり出し、それが従来の建築作品にはない芸術的感動を与えている。

建築がもっとも輝いて見えるのは、環境を含め、その建築にまつわる社会と、そこで活動する人々と共に活力ある行動を包容する姿全体が、体験する私たちにある種の興奮をもたらすときだろう。建築を生み出すプロセスにおいて、「未来の子どもたちのために」というイサム・ノグチの意志が実現していくのを見るにつけ、現代の社会が建築に対してこのような力を求めているということがわかる。新しい人々集まりが新しい風景をつくりあげるのである。この作品の持つこのような建築の新しい方向性は、真に評価されるべきである。

(文責:小篠 隆生君)

5.2 卒業設計優秀作品(日本建築学会北海道支部賞)

(1) 卒業設計優秀作品審査委員会(主査:渡邊 広明君 委員数6名 委員会開催数1回)

2003年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、「大学」、「短大・高専・専門学校」、「工業高校」の分野別に、各委員選定の候補作品についての意見交換により審査方針を協議するとともに、討論により各賞対象候補を抽出した。その後、候補作品各々について合同において再審査し、合議の上、各賞を選出した。

また、講評の論点を確認し、講評者の担当を決定した。

審査員:

主 査：渡邊 広明君

委 員：上遠野 克君、加藤 誠君、小西 仁彦君、齋藤 徹君、中山 眞琴君

(2) 受賞者

大学の部 (応募作品数 12 点)

- ・金賞 白倉 洋次君：北海道工業大学建築工学科
作品名 A Museum on Earthwork
- ・銀賞 富谷 洋介君：北海学園大学工学部建築学科
作品名 Stage of the Stream
- ・銀賞 米花 智紀君：室蘭工業大学建設システム工学科
作品名 Like a pumice 新室蘭市役所計画案
- ・銅賞 松本 哲弥君：北海学園大学工学部建築学科
作品名 HYBRID CONVERSION

短大・高専・専門学校の部 (応募作品数 9 点)

- ・金賞 花田 章子君：札幌市立高等専門学校インダストリアルデザイン専攻
作品名 SCENERY
- ・銀賞 志田 綾乃君：札幌市立高等専門学校インダストリアルデザイン学科
作品名 繫 - KEI
- ・銅賞 半杭 優士君：札幌建築デザイン専門学校建築工学科
作品名 rivet

工業高校の部 (応募作品数 12 点)

- ・金賞 石田 洋介君：北海道札幌工業高等学校建築科
小田 敬介君
佐藤 祐太君
作品名 SEA GULL ~ Existence of only one ~ ただ一つの存在
- ・銀賞 新 幸二君：北海道釧路工業高等学校建築科
作品名 Jerusalem
- ・銅賞 藤川 雄太君：北海道札幌工業高等学校建築科
作品名 Multipurpose Institution of Sapporo City
- ・銅賞 伊藤 絵美君：北海道釧路工業高等学校建築科
作品名 Community Center ~ Fantasy Of Ocean ~

(3) 審査講評

大学の部

金賞・白倉君

多くの卒業設計を見てきた私にとって、今までに 3 つだけ特に印象に残っている。その印象作品は生涯私から離れる事はないであろう。去年の熊切君の作品と倉本君の作品、そして 3 つ目はこの作品である。この 3 つは全くちがう方向性をもっている。建築家として影響されたと言っても過言ではない。「A Museum on Earthwork」は水田の中に建つ建築である。いや、水田の中に建つ精神である。たかが、水田なのに刻々と変化する風景は人の中の「心」と同じである。光を見る又は感じる事は空間を見る事と同意語である。建築は光によって浮かびあがるのだが、この作品はそれだけでなく廻りの水田の水や作物や天気や季節によって浮かびあがる。こんなことを考えながら、都市の中にもこんなチャンスがあるので私をワクワクさせた。プレゼンテーションもさりげなく、秀逸である。ただただ素晴らしい。

(文責：中山 眞琴君)

銀賞・富谷君

この作品は図面 20 板という大作だ。現代建築の方向性が問われる昨今であるが、この計画は何かふっきたものを感じる。新川の河川敷が敷地となっており空中に架けられたブリッジ状のフロアに様々な大きさのユニットを自由に配置し様々なプログラムを可能としている。建築と言うよりは装置であり、新型複合施設の提案である。何も使わない川の上部を使用することにより、新しい見え方・見せ方が想像出来る。しかし、美しいプレゼンテーションで、目を奪われてしまうが、この巨大なブリッジの構造体をと考えるとかなりのメガストラクチャーとなりヒューマンなスケールとは縁遠くなりそうだ。しかし、プレゼンの巧さや、夢を与える計画に力量を感じ銀賞にふさわしいと思った。更に今後を期待したい。

(文責：小西 彦仁君)

銅賞・米花君

審査対象作品の多くが、ランドスケープ、風景、環境、改修などのテーマを情緒的にまとめた私小説的傾向であるのに対し、この作品では空間を創る行為を通して日常社会を変えていこうとする意志が感じられた。「役場庁舎」という硬直化したビルディングタイプを解体するために、役場組織のアクティビティー分析を行った上で、ストライプと気泡を組み合わせたシステムが導入された。すべての機能がここに再整理された結果、役場組織間にインターラクティブなネットワーク環境を作り出すことに成功している。しかし、アクティビティーを自由に組み替えるためのツールであるストライプの補助線が壁として扱われたことで、様々な不自由が生じているのではないか。現状分析の精度が粗いままシステムを決定した感があり、その結果ダイアグラムの域にとどまっているのが惜しまれる

(文責：加藤 誠君)

銅賞・松本君

建築は多大なる原因と結果をもたらす。社会性を持ちながらも、環境に対し細心の注意を払わなければならない。この作品は現在、札幌の一区画に建つ粗大ゴミのようなマンション群がターゲットで、そのフレームだけを残し、新しい集合のあり方、生活と言うもののあり方を鋭く提案している、見事な解決案である。そのコンプレックスで美しい建築都市に暫し我を忘れた。こうでなきゃ都市というものは！抑えぎみのグラフィカルな表現も CG の切り貼りのな図面が多いなかで光っていた。美しい。

(文責：中山 眞琴君)

短大・高専・専門学校の部

金賞・花田君

作品は、手作業で仕上げた大判の図面や妙に気になる記号などが 3m 角程度の 1 枚絵に組み立てられ、シンプルな色使いでありながらの大胆な筆使いが、その全てを語っている。(画面の枠からはずれた、模型写真を組み合わせた 1 枚の添付は必要であったか???)

作品には、都市の街区の一角に刻まれた記念碑性のあるサンクンガーデン、それに面し地下鉄駅に直結する保育園、イベントステージなど、様々なシーンが交錯している。熱心に思いを語る作者と一緒にこの作品を見るならば、より理解を深め、楽しい新たな発見をすることになるのだろう。この作品の持つ大胆さは、作者の未来への期待を抱かせるに十分な表現にあり、金賞に選出された。

(文責：渡邊 広明君)

銀賞・志田君

コントロールされ可動なサーフェイス(建築の外皮)をもつ美術館を街の中に置き、これを通して街、人、光、空気、緑の関係性をデザインしている秀作。可動ルーバーのディテールを含めた矩計図のリアリティーは良く表現されています。内部空間の複雑さ、面白さの表現のみならず、サーフェイスの多様性と街との間のインターラクティブな関係のプレゼンテーションがあったらより良くなったと思います。

(文責：上遠野 克君)

銅賞・半杭君

札幌市内大通りに計画された建物であるが、周辺との関係などが図面上では一切読みとれない。しかしこの計画には一種の力強さとバランスがあり、鉛筆によるドロイングにも魅力を感じた。何かあるのではと予感させる低層部と高層部の関係などセンスを感じる。しかし、全体の計画のあまさなどは、ゆがめないが、まさに rivet という作品名をストレートに伝えた、明確さがあった。

(文責：小西 彦仁君)

工業高校の部

金賞・石田君、小田君、佐藤君

記念館の機能を持つ無人駅のデザインである。線路を跨ぐ2階レベルの展示室が、駅の待合空間となって利用者に親しんでもらう意図である。周りに何も無いことが、消えうせたまちの活気や思い出をもう一度記念館で蘇らせようとすることを強調させている。円形の壁や立方体の形態の組み合わせがバランスよく、模型も抽象的に表現してデザインの力量を評価したい。

(文責：斉藤 徹君)

銀賞・新君

釧路の地に残された毛綱毅曠の建築に触発され、コルビジェや安藤忠雄の建築を規範に、再び釧路の太平洋を見下ろす夕日の美しい小高い丘に、人と自然の交歓を通した新たな発想を持てるような建築の存在を目指している。打ち放し、円筒、借景、水盤とドライの2つの中庭・・・やや危うく、不思議な組合せの中に、作者の思いが伝わる。

(文責：渡邊 広明君)

銅賞・藤川君

近代建築の良質な意匠と、ヒューマンなスケールの中庭が心地よい計画である。細密に描かれた立面図からは、まちのシンボルにもなりうる事がわかる。歴史的建造物の意匠を踏襲した建物が、現代の技術で新しく作られることについて、ノスタルジー以外にどのような意義があるか考えてみてほしい。

(文責：加藤 誠君)

銅賞・伊藤君

夜遅くまでのグループ活動や合宿ができるように宿泊機能を付帯するコミュニティセンターの計画である。外部空間もインテリアも海や波形をモチーフにデザインしていて、コミュニティ活動の楽しい雰囲気をもよく表現している。ファンタジックな表現も適度であり、従来の硬い公共建築のイメージを打破したい計画姿勢は今後に期待したい。建築平面形や断面形は平凡な矩形である。ここにもデザインモチーフを立体的に生かせたらと良かったと思う。

(文責：斉藤 徹君)

5.3 優秀学生・生徒(日本建築学会北海道支部賞)

2003年度道内大学・短大・高専・工高優秀学生・生徒として以下の学生・生徒を表彰した。

平下 貴博君	・山本 祥江君	：北海道大学工学部建築都市学科
福田 弘美君	・富谷 洋介君	：北海学園大学工学部建築学科
和泉 達也君	・松井 望君	：北海道工業大学建築工学科
石崎 絢奈君	・佐々木 崇君	：室蘭工業大学建設システム工学科
森木 藍君	・上村 洋介君	：北海道東海大学芸術工学部建築学科
岩越 洋平君	・前橋 克彦君	：道都大学美術学部建築学科
加地 君江君	・高橋 和久君	：釧路工業高等専門学校建築学科
清水 香愛君	・須藤 景子君	：札幌国際大学短期大学部総合生活学科

鈴木 晶子君：札幌市立高等専門学校専攻科インダストリアルデザイン専攻
松尾 美香君：札幌市立高等専門学校インダストリアルデザイン学科
尾形 郁恵君：北海道職業能力開発大学校建築技術システム技術科
山下 功二君：北海道職業能力開発大学校建築科
佐藤 雅彦君：北海道立正学園旭川実業高等学校建築科
藤川 雄太君：北海道札幌工業高等学校建築科
霞 文代君：北海道札幌工業高等学校定時制建築科
伊藤 清志君：北海道小樽工業高等学校建築科
小寺 康君：北海道小樽工業高等学校定時制建築科
磯貝 美加君：北海道函館工業高等学校建築科
齋藤 正樹君：北海道函館工業高等学校定時制建築科
大橋 貴文君：北海道旭川工業高等学校建築科
山中 健太君：北海道旭川工業高等学校定時制建築科
今井可奈子君：北海道苫小牧工業高等学校建築科
柏 征一君：北海道苫小牧工業高等学校定時制建築科
澤田 真悟君：北海道帯広工業高等学校建築科
原 万馬君：北海道釧路工業高等学校建築科
寺島 龍也君：北海道名寄光凌高等学校建築システム科
館山 友人君：北海道美唄工業高等学校建築科
伊藤 才君：北海道室蘭工業高等学校建築科
遠藤 圭吾君：北海道留萌千望高等学校建築科
坂本 逸深君：北海道北見工業高等学校建築科

6. 建築作品発表会の実施

(1) 建築作品発表会委員会(主査：小篠 隆生君 委員数3名 実行委員10名 委員会開催数5回(実行委員会3回を含む))

本年は、一昨年よりのカラー版作品集の定着に対する評価の上にその発行方針の堅持を確認した上で、さらなる事業改善を検討した。それは、発表会の案内、発表登録、申し込みに関する合理化である。従来よりのダイレクトメールによる発表会の案内を廃止し、支部HPへ記載、また建築雑誌をはじめとする関連雑誌への案内掲載の依頼、という手段をとった。発表登録は、昨年度より実施している学会支部HPより登録フォームをダウンロードし、メールにて登録という方法で行った。この変更で発表登録数の減少が危惧されたが、結果的には、例年並の33作品の応募を集めることができた。

発表形式については、建築作品発表会の本来の目的である建築作品の発表と議論の場であることを再確認し、発表者全員による発表の実施とその後の討論のための追加発表という2段階制を用いた。限られた時間の使い方、その中での内容、質の向上を目指すという方針である。

その後、7名の実行委員を加えて、10名の実行委員会を組織した。実行委員会は、発表方式の変更の確認、作品の受付、プログラム編成、プレフォーラムという流れに沿って5回開催した。今回も昨年同様に、スライドだけでなく、PowerPoint等によるPCを使った発表も可能とした。

11月7日に第23回建築作品発表会を北海道立近代美術館講堂で開催、作品集VOL.23を発刊した。発表会を振り返ってそのまとめと今後の課題をその後の委員会で議論し、北海道建築士事務所協会誌「ひろば」12月号に植田暁君を、また日本建築学会誌「建築雑誌」2004年1月号に川人洋志君の論評を掲載した。

(2) 建築作品発表会の開催

第23回建築作品発表会

期日 2003年11月7日

会場 北海道立近代美術館講堂

発表作品数 33 題

発表者全員による作品発表と議論の中心となる作品についての追加発表という形式で発表会を行った。今回は、道外建築家からの 4 作品を含め、33 作品の発表があったが、作品の内容は、小さな個人住宅から比較的大規模な公共施設まであり、一年を通じ、意欲を持って創作された道内の建築作品のよきデータベースとなり得ているものである。また、今年は、北海道建築界の重鎮である上遠野徹氏自らも作品を発表になり、北海道内における年に一度の建築作品の発表の場であることの意義を再確認した。

参加者約 500 名。「北海道建築作品発表会作品集 2003 VOL.23」を発刊。

7. 特別委員会の活動

7.1 事業主査連絡会（事業系 5 委員会の主査、活性化委員会事業企画部会担当常議員 連絡会開催数 1 回）

活性化委員会事業企画部会との連携を図るため、合同会議を開催し、事業系各委員会の活動経過・予算執行状況報告、次年度活動計画・予算案について情報交換を行った。また、更に具体的な議論がなされ、支部事業の活性化に向け支部財政を念頭に置き、学術委員会を含めた全般のあり方や実施責任の明確化等に関し検討し、改善してゆく必要があるとの認識が示された。

7.2 総務委員会（主査：後藤 康明君 委員数 5 名 委員会開催数 1 回 <他に、合同企画委員会 4 回>）

北海道支部の毎月の収入・支出内容についての確認、経理執行状況と予算との比較検討、全体の財務管理について主に検討を行い、常議員会で報告を行った。また、次年度の予算案策定について検討した。昨年に引き続き日本建築家協会北海道支部との合同委員会において、運営上の議題として合同会議室の利用に関する規定を協議した。また、建築関連の情報交換を行うとともに、合同企画についての検討も行いジョイントセミナー（2 回：11/27, 3/19）を実施した。

7.3 活性化委員会

2001 年度に「支部活性化委員会」が、支部長を委員長とし全常議員を委員とする構成で常議員会に設置され、支部活動を活性化させるための検討を行ってきている。また、この委員会は「事業企画部会」及び「会員サービス部会」で構成されている。

（1）事業企画部会（構成員：那須 豊治君、石塚 弘君、佐藤 孝君、小林 孝二君、向山 松秀君、藤島 喬君、山之内 裕一君、菊地 優君）

・事業の企画など支部活動の活性化を検討するため、事業主査連絡会と合同会議を開催し、厳しい財政状況下での活動全般の改善の必要性が提起された。

・担当委員会

事業主査連絡会（建築作品発表会、北海道建築賞、作品選集支部選考部会、支部共通事業設計競技審査委員会、卒業設計優秀作品審査委員会）

総務委員会

（2）会員サービス部会（構成員：小幡 圭二君、菊地 優君、斎藤 徹君、佐藤 哲身君、鈴木 康志君、中原 宏君、那須 豊治君、長谷川 雅浩君、向山 松秀君）

・各委員会活動の連絡調整、及び会員の状況把握と勧誘活動、要望への対応、情報提供、地区委員との連携等の検討を行った。

・担当委員会

学術委員会（専門委員会、特定課題、本部助成、文化関連事業）

研究発表会
ホームページ管理委員会

7.4 ホームページ管理委員会（主査：長谷川 雅浩君 委員数2名）

本委員会は2001年4月に開設された当支部のホームページを管理することを目的としている。2003年度は約7800件のアクセスがあり支部活動の広報に貢献した。講習会、シンポジウム、講演会等の案内を18件掲載、支部研究報告会の申込み関係書類のHPからのダウンロード化などを行った。

7.5 2004年度大会実行委員会（委員長：城 攻君 委員数67名（大会委員会 36名[重複分21名を含む]） 委員会開催数8回）

2003年4月の本部理事会において、2004年度の大会を北海道支部が主催することが承認された。当実行委員会は昨年度に発足した設立準備委員会で指名された委員により組織され、6月に第1回委員会を開催した後に委員の充足を行い、現在の委員数は67名である。実行委員会は、城委員長の下、総務、経理、学術・会場、行事、懇親会の5つの部会から構成されている。今回の大会の協力業者としてJR北海道及びJRエージェンシーを選定して、両社担当者が委員として参加している。また、この委員会の上に大会委員会が組織され、委員長に石山支部長をはじめとして、北海道、札幌市、建築関連諸団体の関係者及び歴代の支部長が顧問の職についている。今年度は実行委員会を7回及び部会長会議、本部事務局との打ち合わせ、拡大幹事会をそれぞれ1回開催して、全国大会の実施に向けて協議を行った。この他に各部会ごとに数回の打合せを行っている。また、2003年9月に中部大学で行われた東海支部主催の大会において大会運営状況の視察の他、実行委員会との引継ぎ会議を行った。委員会では、今年3月開催の本部理事会に向けて大会において実行委員会が主催する全行事の内容・運営方法、大会予算書の作成、会場の手配・配置計画など詳細にわたる検討を行い、行事概要、予算案の承認を受けた。引き続き8月29～31日開催の大会に向けて準備を行っている。

7.6 十勝沖地震災害調査委員会（委員長：石山 祐二君 委員数16名+協力委員4名）

2003年9月26日未明に発生した十勝沖地震は、本震及び余震により釧路・十勝地方を中心に震度6弱の揺れを与えた。北海道支部の都市防災専門委員会・構造専門委員会が中心となって同日午後に情報交換会を開催し、震源地に所在する支部として本地震の被害調査の必要性を協議し、支部の災害調査基金により調査活動を行うことを決定した。調査は、釧路・根室・十勝・日高の4支庁に渡るため、調査班を全部で7班組織して各調査範囲を分担し、早い班では翌日に現地に赴いた。全国でいち早く建築物の被害調査を行ったことから、学会本部災害委員会のホームページに毎日の被害調査概要の報告をアップロードし、その後の調査に非常に役に立った。本委員会の調査は3～4日にかけて行い、10月3日に速報の報告会を行った。その際に、調査に携わったメンバーを中心とした被害調査委員会を正式に発足した。支部に申請した災害調査基金の取崩は10月の常議員会で承認され、調査費用に支出した。現在、基金事業として申請している被害調査報告書の作成を行っている。なお、調査報告書は支部総会にて紹介する予定である。

幹事 鏡味(発起人)、岡田(支部都市防災専門委員会主査)、武田(支部構造専門委員会主査)
委員 城、井上、菊地、麻里、北野、草苺、土屋、荒井、溝口、鈴木、高井、後藤(事務局)
協力委員 大畑、村田(北大学生)、畑中、柿本(北海道工大学生)

8 . 講習会・シンポジウム等の開催

8 . 1 (1) 本部主催講習会

名 称	期 日	会 場	講 師	参加者数
鉄筋コンクリート造建造物の収縮ひび割れ講習会	2003.6.16	北海道大学学術交流会館	名和豊春君 他2名	59名
2003年度支部共通事業「建築基礎構造設計例集」改訂講習会	2004.3.3	北海道大学学術交流会館	小林勝巳君 他3名	56名

8 . 1 (2) 支部委員会主催講習会 (セミナー)

名 称	期 日	会 場	講 師	参加者数
こどもたちへ - 環境きょういく - 北海道立北方建築総合研究所を素材にした実践的プログラムの試行・提案 -	2003.10.25 2003.10.28	北海道立北方建築総合研究所 北鎮小学校	東三郎君 他8名	320名

8 . 2 (1) 本部主催講演会

なし

8 . 2 (2) 支部主催講演会

名 称	期 日	会 場	講 師	参加者数
シックハウスとシックスクール	2003.12.9	北海道函館工業高校	横山幸弘君	80名
最近の施工技術	2003.12.17	北海道美唄工業高校	三浦裕悦君	43名
超高層ビルの構造デザイン	2003.12.19	北海道旭川工業高校	田沼吉伸君	39名
第23回北海道建築作品発表会	2003.11.8	北海道立近代美術館 大講堂	作品数33点	約500名

8 . 2 (3) 支部委員会主催講演会

名 称	期 日	会 場	講 師	参加者数
米国人研究者3名による特別講演・建築・社会基盤構造物の最近の話題 (構造専門委員会)	2003.5.27	北海道大学学術交流会館	S.Cリ्यू博士 他2名	69名

8.3 展示会

開催日	名 称	会 場	参加者数
2003.5.16 ～5.27	2002 年度 道内大学・短大・高専・専門学 校・工高卒業設計優秀作品展示会	インテリアセンタ -	約 100 名
2003.5.23 ～5.25 5.28～30 6.6～ 8 11.11～14	全国大学・高専卒業設計展示会	北海道東海大学 室蘭工業大学 北海道大学 釧路工業高等専門学校	638 名 200 名 70 名 100 名
2003.6.30 ～12.18	道内工高卒業設計優秀作品巡回展	道内工高 13 校	

8.4 見学会

開催日	見 学 場 所	解説者	参加者数	主 催
2003.10.18	空知地方における歴史的建造物の 再生事例をたどる	武部豊樹君 他 4 名	63 名	歴史意匠専門委員会
2003.7.9	新伊藤ビル新築工事現場	大谷正則君 他 3 名	約 80 名	構造専門委員会
2004.3.9	JR 琴似駅北口地区第一種市街地 再開発事業施設建築物	谷川栄治君 他 2 名	42 名	構造専門委員会

9. 本部関連事業・その他

9.1 2003 年度支部共通事業設計競技の実施

(1) 共通事業設計競技審査委員会 (主査：藤島 喬君 委員数 5 名 委員会開催数 1 回)

支部審査員：

主 査： 藤島 喬君

委 員： 川人 洋志君、小西 彦仁君、柳田 良造君、山之内 裕一君

委員会は 7 月 22 日、委員全員出席で北海道支部事務所会議室において午後 5 時より開催した。本年の設計競技課題は「みち」であり、道内からは 3 点の作品があった。3 作品に共通しての印象は、CAD を駆使した表現方法で、美しく精密ではあるが、主題をどう語っているかが審査する側に伝わってこなかった。審査は前半各委員が作品 3 点を 1 時間かけ審査し、後半は活発な意見交換の後に再び各々が厳正な審査の上投票した。その結果、佐々木案を支部入選と決定した。

(文責：藤島 喬君)

(2) 審査講評

佐々木タ介案「road side shop parking」は、どこにでもありそうな郊外型大型店舗に付属した駐車場のリニューアルである。特筆すべき目新しさはないが、車をスローダウンさせ人間のスケールを取り戻そうとした試みは評価できよう。計文浩+新美完案「COMPOSITION」は、道を単位化した土地に還元し、その利用システムを提案するものだが、システムの中に豊かな広がりが見えてこ

ない。清水学案「Frayed Tapestry」は、都市の設備系インフラを道に見立て、札幌のグリッド状街区との関連のなかで、都市再生を提起する。詩的で美しい表現形式に比較して、内容はステレオタイプ化し魅力に乏しい。総じて、今回は審査員全員満足のいく提案をみることができず、いわば消去法により支部入選案（佐々木タ介案）を決定するところとなったのは残念である。今後の応募者各位の奮起を期待したい。

（文責：山之内 裕一君）

9.2 作品選集支部選考の実施

（1）作品選集支部選考部会活動報告（主査：山田 深君 委員数 9名 委員会開催数 2回）

審査員：

主査：山田 深君

委員：小川 富之君、金沢 俊邦君、近藤 清隆君、佐藤 孝君、田川 正毅君、
塚田 哲也君、鳥谷部 隆司君、中山 眞琴君

本年度に北海道支部に応募された作品数は13点であり、前年度と比較して増加したものの、いまだに応募数は多いとはいえない。部会では、応募書類によって一次選考を行い、7作品を現地審査対象とした。札幌市内は2作品と少なく、道内各地に分散した候補作について、7月下旬に集中して現地審査を行った。第二次選考では、現地審査の報告をもとに議論を行い、特に寒冷地における環境システム構築自体を表現の主題とした2作品をSランクとして評価すべきかどうか、またCランクとしての推薦を行うか否かについて、様々な意見が出された。最終的に、評決によって6作品を支部推薦とし、下記の4作品が本部委員会において、作品選集掲載決定となった。詳細については、作品選集2004をご覧ください。

（2）作品選集支部選考の結果

支部応募作品数 13点

支部選考通過作品数 6点（本部採用4点）

作品選集掲載作品

・遠友学舎

小林 英嗣君、小篠 隆生君：北海道大学

鈴木 敏司君、渡邊 広明君：アトリエアク

・矩形の森

五十嵐 淳君：五十嵐淳建築設計

・神内ファーム21プラントファクトリー

野呂 一幸君、宮崎 伊佐央君：大成建設設計本部

・北海道立北方建築総合研究所

林 勝朗君：前北海道立北方建築総合研究所

大柳 佳紀君、福島 明君、鈴木 大隆君：北海道立北方建築総合研究所

後藤 達也君、加藤 誠君：アトリエブク

9.3 建築文化週間

（1）見学会「建築散歩 - 空知地方における歴史的建造物の再生事例をたどる - 空知編」

（歴史匠匠専門委員会 責任者：羽深 久夫君）

日時： 2003年10月18日（土） 9:00 ~ 18:00

見学場所：三笠市（旧由仁町農家）、砂川市（旧北海道立滝川畜産試験場機械庫）、美唄市（旧美唄市立栄町小学校）

参加者数：計 63名

・旧由仁町農家（現 武部建設モデルハウス・古材ギャラリー）

講師：武部豊樹（武部建設㈱）、中田信広（㈱中田建築設計）、中村欣嗣（中村よしあき建築

研究所)

- ・旧北海道立滝川畜産試験場機械庫(現アップルガーデン)
講師:三谷将(アップルガーデン代表)、武部豊樹、中田信広、中村欣嗣
- ・旧美唄市立栄町小学校(現アルテピアッツア美唄)
講師:千葉一夫(美唄市教育委員会 アルテピアッツア美唄館長)
- ・意見交換会
司 会:歴史意匠専門委員会主査、幹事
パネラー:千葉一夫、武部豊樹、中田信広、中村欣嗣、飛岡佳典(空知支庁経済部林務課課長)

(2)「こどもたちへ - 環境きょういく

- 北海道立北方建築総合研究所を素材にした実践的プログラムの試行・提案 - 」

(環境工学専門委員会 責任者:福島 明君)

内容及び日時

- ・パビリオンの一般公開・体験:2003年10月25日(土)10時~17時
参加者数:大人105人、子供88人、計193人
- ・「環境きょういく - いろんな立場から」セミナー:2003年10月25日(土)13時~17時
参加者数:60名
司 会 大柳 佳紀氏 北方建築総合研究所
基調講演 東 三郎氏 北海道大学名誉教授
講 師 仲世古 善雄氏 麓郷(ろくごう)木材工業社長
講 師 林 美香子氏 フリーキャスター
講 師 石田 秀樹氏 北海道東海大学教授
講 師 浅野 晃彦氏 農業
- ・旭川市内の小学校の総合授業として体験学習:2003年10月28日(火)10時~17時
参加者数北鎮小学校5年生児童65人、教員2人

10. 建築関連団体との活動

10.1 AIJ-JIA 合同委員会(運営委員会7名 0回、企画委員会13名 4回)

合同事務所開設から2年を経過し、特に大きな問題が無い限り運営委員会は合同企画委員会と兼ねて行う事としたので、運営委員会単独では開催しなかった。運営上の事項として、合同会議室の会員利用について協議し、規定を作成した。企画委員会では、ジョイントセミナーについて協議し、下記の通り2回開催した。その他、北海道建築設計会議の活動や建築関連の展示会等の情報交換を行った。

第6回AIJ-JIAジョイントセミナー 2003年11月27日 吉野利幸君 「窯業系外装材の凍害」

第7回AIJ-JIAジョイントセミナー 2004年3月19日 名和豊春君 「RC建物のひび割れ防止」

10.2 北海道建築設計会議(幹事会 10回)

2003年3月、(社)日本建築学会北海道支部、(社)北海道建築設計事務所協会、(社)日本建築家協会北海道支部、(社)北海道建築士会、(社)北海道まちづくり促進協会の5団体で発足した本会議は、原則として毎月幹事会を開催した。本会からは、代表幹事である中岡正憲、常議員である佐藤孝と向山松秀の3名を参加させた。幹事会ではCPD(継続能力開発)の共同化や建築学会全国大会に時期をあわせての共同プログラム等を討議した。また、本年3月から北海道設備設計事務所協会、(社)日本構造技術者協会北海道支部、(社)日本積算協会北海道支部の3団体が新たに本会議に加入した。

1 1 . 支部規定追加

支部活動の活性化と意識の高揚をはかることを目的とし、当支部の維持・発展にとって功績・功勞のあった会員に対し、今後「日本建築学会北海道支部功勞賞」の表彰を行うものとし、その規定を定めた。

1 2 . 共催・後援（2003 年度内に申請のあったもの）

期 日	名 称	会 場	主 催
後援 2003.7.5	北海道のモダニズム建築を 考える	かでの 2 . 7	北海道新建築家技術者集団 北海道支部
2003.10.8 (提出締切)	第 27 回「北の住まい」住宅 設計コンペ		(社)北海道建築士事務所協 会
2003.7.22	「イサム・ノグチ展 I N ガラ スのピラミッド」	モエレ沼公園内ガラ スのピラミッド	モエレ沼公園の活用を考え る会、 (財)札幌市公園緑化協会 札幌市
2003.10.25 ~ 10.26	「北の家づくりフェア」	網走市オホーツク文 化交流センター	北海道
2003.11.5	第 14 回旭川建築作品発表会	リハーサルホール	旭川まちなみデザイン推進 委員会
2004.3.8 ~ 3.12	建築士のための指定講習会	道民活動センター 旭川市民文化会館 函館勤労者総合福祉 センター 帯広ソネビルイベン トホール 室蘭市中小企業セン ター	(社)北海道建築士会
2004.3.28	「平成 15 年度北方型住宅地 域セミナー - 最北の地にお けるまちなか居住とすまい づくり - 」	稚内総合文化センタ ー	宗谷支庁

2003 年度財産目録及び収支決算報告

2003 年度 財産目録

2003

資産の部					資金および負債の部					
摘要		前年度末	本年度末	比較	摘要		前年度末	本年度末	比較	
基本財産					資	支部基金	3,010,000	3,010,000	0	
						学術振興基金	4,020,000	3,840,000	-180,000	
						災害調査	2,000,000	1,730,000	-270,000	
						退職金積立金	60,000	180,000	120,000	
	計	0	0	0						
運用財産	現金	165,937	52,828	-113,109	金					
	預金	719,992	453,379	-266,613						
	普通預金	719,992	453,379	-266,613						
	未収金	0	0	0						
	仮払金	506,200	623,359	117,159						
	計	1,392,129	1,129,566	-262,563		計	9,090,000	8,760,000	-330,000	
引当財産	基金引当預金	3,010,000	3,010,000	0	負	未払金	0	0	0	
	信託預金	0	0	0			仮受金	494,744	453,468	-41,276
	定期預金	3,010,000	3,010,000	0						
	学術振興基金引当預金	4,020,000	3,840,000	-180,000						
	定期預金	4,020,000	3,840,000	-180,000						
	災害調査預金	2,000,000	1,730,000	-270,000						
	普通預金	2,000,000	0	-2,000,000						
	定期預金	0	1,730,000	1,730,000		計	494,744	453,468	-41,276	
	職員退職引当預金	60,000	180,000	120,000	繰	前期繰越金	0	0	0	
	定期預金	60,000	180,000	120,000			当期過不足金	897,385	676,098	-221,287
	計	9,090,000	8,760,000	-330,000	越	計	897,385	676,098	-221,287	
	合計	10,482,129	9,889,566	-592,563	金	合計	10,482,129	9,889,566	-592,563	

2003 年度 収支決算書

収入の部				支出の部					
摘要	予算額	決算額	増減	摘要	予算額	決算額	増減		
交付金	支部費	1,504,000	1,624,000	120,000	事業費	調査研究事業費	830,000	793,925	-36,075
	経営助成金	2,760,000	2,700,000	-60,000		表彰関係費	780,000	702,173	-77,827
	事業交付金	1,030,000	1,024,000	-6,000		設計競技費	40,000	1,494	-38,506
	支部事務所費	1,589,000	1,589,000	0		卒業設計展示費	40,000	51,677	11,677
	支部事務費	300,000	300,000	0		教育文化事業費	500,000	466,780	-33,220
					ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ等経費	2,800,000	3,013,515	213,515	
					委託調査研究費	0	850,000	850,000	
計	7,183,000	7,237,000	54,000	計	4,990,000	5,879,564	889,564		
副次収入	ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ等収入	2,400,000	2,558,279	158,279	特別事業費	特別企画事業費	380,000	458,572	78,572
	調査研究受託収入	0	1,000,000	1,000,000		計	380,000	458,572	78,572
	雑収入	650,000	675,961	25,961	会議費	総会費	180,000	233,700	53,700
	収入利息	5,000	5,644	644		役員会費	70,000	53,727	-16,273
				0		運営費	15,000	6,000	-9,000
計	3,055,000	4,239,884	1,184,884	計	265,000	293,427	28,427		
前期繰越金	897,385	897,385	0	事務費	人件費	2,100,000	2,322,342	222,342	
基金取崩金	380,000	450,000	70,000		通信費	300,000	279,149	-20,851	
					印刷費	20,000	16,800	-3,200	
					消耗品費	150,000	64,290	-85,710	
					雑費	600,000	626,186	26,186	
				事務所費	2,270,000	2,207,841	-62,159		
				計	5,440,000	5,516,608	76,608		
				基金積立金	0	0	0		
				予備金	440,385	0	-440,385		
小計	11,515,385	12,824,269	1,308,884	小計	11,515,385	12,148,171	632,786		
資産収入				資産支出					
	合計	11,515,385	12,824,269		1,308,884	合計	11,515,385	12,148,171	632,786
	収支差額				収支差額		676,098		

監査報告

2003 年度における社団法人日本建築学会北海道支部の業務及び経理を監査の結果、業務は適法であり、収入支出とも適正なものと認める。

2004 年 5 月 7 日

支部監事

井野



支部監事

伊藤



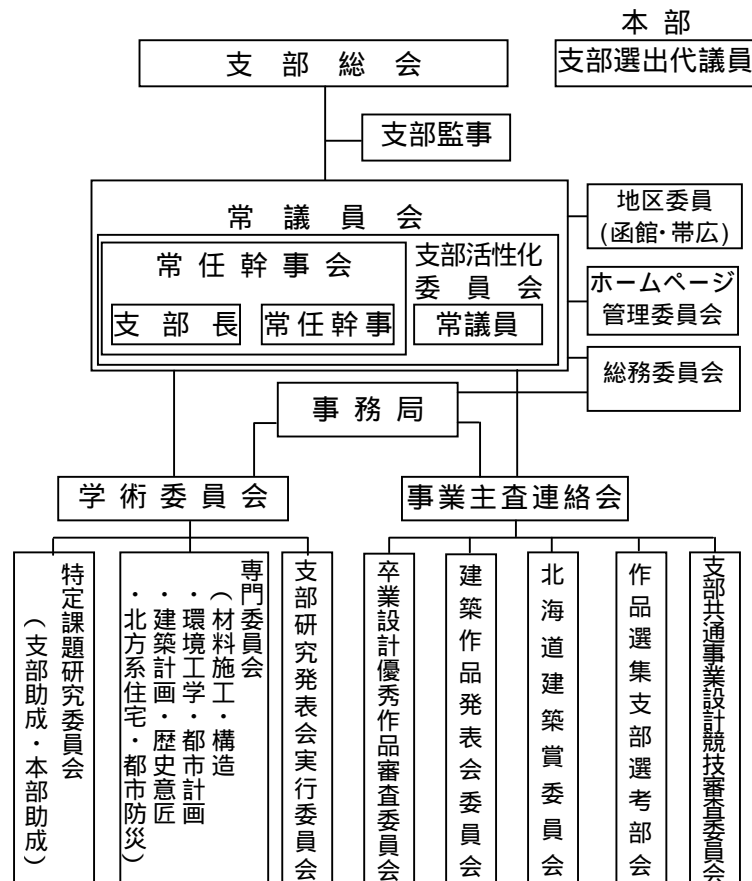
2004 年度事業計画方針案

1. 活動方針

建築界を取り巻く諸情勢は、残念ながら依然として厳しい。その影響もあり、全国的な傾向でもあるが、支部の個人・法人会員も徐々に減少している。このような状況に対応するためにも、本年度においては、これまで以上に活動成果の社会的還元や会員サービスの充実を図り、効率的な財政運営に努める必要がある。このため、引き続き支部事務所を有効に活用するほか、ホームページの充実などにより会員への迅速かつ的確な情報提供を進める。

なお、本年 8 月末には日本建築学会大会が北海道で開催されることになっており、大会の成功に向けて実行委員会を中心に万全の準備を継続する。近年、大会は会員の学術発表・交流の場のみではなく、一般市民向けの行事を地方都市でも開催するなど、学会の社会貢献を意識したものとなっている。このような「社会に開かれた学会」を目指すために、会員は学会の通常の活動に積極的に参加するとともに、他の関連諸団体と協力し建築を通して社会に貢献できるように努力する。またこのような観点からも、2003 年に発足した「北海道建築設計会議」を通じての他団体との連携強化を行い、活動を推し進めることが重要である。

2. 2004 年度執行体制



日本建築学会北海道支部組織構成図

支部長(2004.6.1~2006.5.31)

城 攻君 北海道大学大学院工学研究科教授

新任常議員(2004.6.1~2006.5.31)

飯田 雅史君 北海道工業大学教授
杉山 雅君 北海学園大学教授
高橋 章弘君 北海道立北方建築総合研究所環境科学部都市防災科長
塚田 哲也君 大成建設札幌支店設計部長
鳥谷部隆司君 久米設計札幌支社副支社長
南出 孝一君 ドーコン建築都市部副技師長
八代 克彦君 札幌市立高等専門学校助教授

支部長及び新任常議員は、支部役員選挙開票(2004年4月17日)により決定した。

支部役員選挙管理委員は次の通りであった。(印 委員長)

菊地 優君 石塚 弘君 羽山 広文君 向山 松秀君 横山 隆君

留任常議員(2003.6.1~2005.5.31)

石塚 弘君 北海道渡島支庁建設指導課長
小幡 圭二君 北海道札幌工業高等学校設備科科长
菊地 優君 北海道大学大学院工学研究科助教授
中原 宏君 札幌市立高等専門学校教授
藤島 喬君 T A U設計工房代表取締役
向山 松秀君 石本建築事務所札幌支所副支所長
山之内裕一君 山之内建築研究所代表
(印 常任幹事)

新任代議員(2004.4.1~2006.3.31)

鏡味 洋史君 北海道大学教授
南 慎一君 北海道立北方建築総合研究所主任研究員
横山 隆君 清水建設北海道支店営業部長
(2004年3月の本部選挙の結果、上記3名が選出された)

留任代議員(2003.4.1~2005.3.31)

伊藤 茂樹君 北海道立紋別南高等学校校長
絵内 正道君 北海道大学教授
野田 恒君 伊藤組土建技術部長

新任支部監事(2004.6.1~2006.5.31)

千葉 純君 北海道建築指導センター理事長
(2004年4月の支部常議員会で選出された)

留任支部監事(2003.6.1~2005.5.31)

伊藤 寛君 道都大学教授

地区委員(2004.6.1~2006.5.31)

帯広地区委員 小野寺 一彦君 設計工房アーバンハウス主宰
函館地区委員 山本 真也君 函館市企画部企画管理課長

3. 支部運営の諸会合の開催

総会

期日 2004年5月21日(金)

会場 北海道立道民活動センタービル(かでの2・7)

常議員会 (複数回)

常任幹事会 (複数回)

選挙管理委員会 (支部役員選挙時に開催する)

4. 学術系委員会の活動

4.1 学術委員会 (主査:野口 孝博君 委員数 16名、委員会開催予定数4回)

当支部学術委員会主査は本部学術推進委員会の地域委員として参画して、その情報を支部の各専門委員会に向けて伝達する。当学術委員会は各専門委員会及び特定課題研究委員会から調査研究の企画・計画及び活動の報告を受ける。また、支部研究発表実行委員会の企画の審議と承認及び次年度の特定課題研究、支部助成研究及び建築文化週間の募集を行い、説明を受けて選考を行う。その他、各専門委員会の活動の横断的な連絡などの役割も担う。

第1回目;本部学術推進委員会報告(以下本部報告)各専門委員会・特定課題研究委員会の活動計画、支部研究発表実行委員会の予定、建築文化週間の実施計画

第2回目;本部報告、各専門委員会の活動報告、次年度支部研究発表会の開催場所の決定・募集要項その他の検討事項、大賞候補募集

第3回目;本部報告、各専門委員会の活動報告、支部研究発表会の募集要項の決定、次年度の特定課題研究及び建築文化週間の募集

第4回目;本部報告、次年度の事業計画、予算原案の検討、次年度の特定課題研究及び建築文化週間の選考、支部研究発表会の特別企画の決定、特定課題研究及び建築文化週間の結果報告

4.2 専門委員会の活動

材料施工専門委員会 (主査:濱 幸雄君 委員数 21名、委員会開催予定数5回)

建築の材料・施工に関する情報や意見の交換のほか、支部長から諮問される事項の検討、本部との情報交流や諮問事項の検討、最近の施工現場や特色のある建築物や工事現場の見学会、本部主催講習会への協力や北海道に関連する材料施工部門の研究委員会の提案を行う。具体的な活動予定は以下のとおりである。

- 1) 本部及び支部各種委員会報告と諮問事項の審議
- 2) 「寒中コンクリート施工指針・同解説」の改定に向けた調査研究及び意見交換
- 3) 見学会の開催 6月開催の委員会で決定
- 4) 道内巡回講演会

構造専門委員会 (主査:武田 寛君 委員数 22名、委員会開催予定数4回)

- 1) 講演会
講師:岡田 成幸君
- 2) 見学会
建築物の見学会を予定。場所は未定
- 3) 特定課題研究

昨年度に引き続き「外壁の外側に設置された軸組ブレースの積雪被害に関する実態調査」を行う。札幌市内を中心に、鉄骨体育館のブレースの雪害による変形を調査し、そのメカニズムを調べ、対策を提案する。

環境工学専門委員会（主査：福島 明君 委員数 26名、委員会開催予定数 5回）
学会活動の協議のほか、室内空気質、住宅の環境安全、建物のエネルギー診断など多様なテーマを設定して、研究活動を行う。また、建築設計と建築環境の共同作業を目的として、WGの設置を予定している。2004年8月開催予定の大会にて環境建築と環境教育を題材に研究集会の開催を申請している。これ等の活動を基に特定課題研究への応募を検討するほか、技術者や一般市民を対象としたセミナー等を企画する予定である。

建築計画専門委員会（主査：門谷 眞一郎君 委員数 17名、委員会開催予定数 5回）
「特色ある住民参加型の建築計画事例の発掘」をテーマに委員会活動を更に展開する。特に公共的な施設の計画においては、社会資源の蓄積を図る上でも、地域の人々に愛着を持って利活用される建築の在り様が、旧知に勝って求められる時相となっているからである。主にネットワークを活用したフィールドワークを行うと共に、2~3の事例について実地の調査を計画している。2002年度、道東、2003年度、道北を対象地域にフィールドワークを行ってきたが、2004年度は、その中から幾つかの事例について更に詳細な内容調査を試みる。（実地調査：2002年7月~9月）
なお、ネットワークによるフィールドワークは、これを継続的に行う。

都市計画専門委員会（主査：瀬戸口 剛君 委員数 15名、委員会開催予定数 6回）
平成16年度は北海道内の都市で大きな課題となっている、まちなか居住に関する研究会を継続する。北海道開発局や北海道庁、札幌市とともに、研究会またはフォーラムの開催を予定している。また、本部都市計画委員会地方都市小委員会との共催で、まちなか居住の研究会を函館において行う予定である。さらに、上記研究会「まちづくりプラットフォーム」を継続して行う。

歴史意匠専門委員会（主査：羽深 久夫君 委員数 20名、委員会開催予定数 5回）
2003年度より3ヶ年計画で行われる文化庁・北海道教育委員会の「北海道近代和風調査」に協力する。石狩市から予定されている委託研究の研究調査を行う。建築文化週間企画は、「日本最北の歴史的建造物とまちづくり 建築・景観発見の旅」として10月に開催する。特定課題研究委員会として2ヶ年計画で「北海道の歴史的建造物における和風意匠の展開過程」の研究調査を行う。7月の北海道支部研究発表会の特別企画「上遠野徹の住宅 北海道における住宅史的意義と住宅設計の展開にむけて」に協力する。道内工業高校巡回講演会への講師派遣を計画する。
8月の大会では、研究協議会「近代日本のフロンティアにおける建築活動の展開過程」、パネルディスカッション「ドコモモの選定作業における日本近代建築の検証と保存活用の方向性」、研究懇談会「北海道におけるアイヌ文化期の住居形式の変容」を主催し、「近代大学施設の原因+実測図展」を共催し、建築歴史・意匠分野の懇親会、有珠・伊達・室蘭における民家・近代建築見学会を行う。

北方系住宅専門委員会（主査：絵内 正道君 委員数 20名、委員会開催予定数 8回）
（活動方針）
本年度も一般市民向けの普及活動と、前年度に申請を試みた特定研究課題についての事前的な研究の取り組みを行い、検討した研究方針に従って具体的に研究活動を進めていく。
（主な活動事業と時期）
1）一般市民向けの普及活動として
本専門委員会が刊行した「雪休日の楽しみ - 良さ発見型の成長へ -」をベースに市民フォーラムを開催する。
2）本年度の北海道大会のPD
北海道支部学術委員会を通じ本専門委員会が支部企画として申請した研究集会テーマ「社会資

産としての住居の育成」は建築計画・地球環境部門のPDとして開催される。学会員ばかりでなく、広く市民の参画を呼びかけて充実した議論の場となることを計画する。

3) 特定研究課題の申請

今後の研究主題の論議を開始する。

4) 学会本部・支部の試問や打ち合わせのための委員会の開催(8回程度を予定)

都市防災専門委員会 (主査:岡田 成幸君 委員数 21名、委員会開催予定数 8回(通信委員会、個別WG委員会等を含む))

(活動方針)

当委員会はWGに分かれて活動を実施しており、全体会議は2回を予定している。活動事業をWG毎に以下に列記する。

(活動事業)

- ・学術企画WG:これまでの積雪寒冷地に関する防災に関する議論を展開し、雪害や積雪時の地震災害の問題点をさらに掘り下げ、広い分野からの議論を行う。意思決定問題WG・避難問題WGとの連携を深め、「特定課題研究」「特色ある支部企画」への申請を行う予定である。年度初めにテーマを確立しての議論が必要である。
- ・見学会企画WG:札幌市の「石狩平野北部構造調査」関連で、パイプロサイズによる反射法・微動探査の現場見学、モエレ沼公園・ガラスのピラミッドの見学を予定している。両者共に年度の早い段階での見学会を予定している。
- ・広報WG:支部都市防災専門委員会HPの運営、本部災害本委員会のインターネットWGへの参加、防災ニュースの発刊を行う。HPの運営とニュースの発刊は随時行っていく。
- ・有珠山防災まちづくり計画WG:この課題は2003年度特定課題研究に採択され、次年度が最終年となる。被害想定、復興計画、移転費用シミュレーション等の研究活動を予定している。
- ・意思決定問題WG:1991年に支部地震被害調査法研究委員会から出された「地震被害調査法マニュアル」の改訂を行う。年度初期に問題点と北海道の調査組織を整理し、後半で調査ツールの作成を行う。ここで、対象とする災害を地震被害にとらわれず都市災害一般にさらに広げ、地域特有の問題への議論を深め、学術WGと連携を密にし、テーマを特定課題研究申請へと発展させる。研究の特性から地方委員を含めた自由討議が大切であると考え、数回の自由討議を行うWGの開催を計画している。
- ・避難問題WG:具体的な検討事項として、冬期に災害が発生した場合の避難行動に関わる積雪の影響(吹きだまりや凍結路面がある場合の避難時間の遅延など)について検討する。また、そのような避難問題に対する行政機関の指導体制に関して検討する。本問題は積雪寒冷地特有の問題であり、学術企画WGと意見交換を行いながら、「特色ある支部企画」へと展開していく。
- ・2004年度建築大会記念事業実行WG:2004年8月20日に釧路市において防災ワークショップ及びシンポジウムを開催予定であり、そのための企画・運営・実行にあたる。

4.3 特定課題研究委員会の実施

(2003年度より)

鉄骨軸組プレース被害調査研究委員会 (主査:苦米地 司君 委員数 4名、委員会開催予定数 3回)

1) 研究目的

本研究では、被害の実態と積雪沈降荷重との関連の把握、ガセットプレートの面外変形防止設計法の確立を目的としている。

2) 研究方法

2003年度に実施した実態調査を継続し、資料の蓄積を行う。調査対象地は、旭川市、石狩市、倶知安町、ニセコ町、蘭越町に建設されている体育館、倉庫とする。さらに、2004年3月から開始した屋外実験で、積雪状況の変化とプレースのひずみとの関係を詳細に検討する。

3) 研究成果の予定

外壁の外側に設置される軸組プレースに作用する積雪沈降荷重の特性を明らかにし、ガセット

プレ - トの面外変形防止設計法の考え方を提示する予定である。さらに、研究成果は変形した軸組プレ - スの補修が促進されるような啓蒙活動に活用したいと考えている。

都市・建築の安全性評価研究委員会（主査：羽山 広文君 委員数 5 名）

2003 年度の検討に引き続き、自治体が保有する救急搬送データの記録を入手・分析し、都市や建築に関わる傷病の発生箇所、発生時期・時間、その種類、容態の程度などを調査分析し、傷病の発生と住環境の関係を明らかにする。また、これらの結果を用い、安全と健康を配慮した都市・建築の環境計画の提案を目的に実施する。具体的な計画を以下に示す。なお、研究の成果は 2004 年の日本建築学会学術講演会及び空気調和・衛生工学会の学術講演会等に発表する。また、2005 年日本建築学会北海道支部研究発表会で報告する。

- 1) 住宅内における入浴死以外の疾病に関する分析・評価
- 2) 浴室及び浴槽内温度の評価方法の検討
- 3) 浴室の室温確保の方法とその効果の分析
- 4) 安全と健康を配慮した建築計画の提案

(2004 年度より)

北海道近代和風建築調査委員会（主査：羽深 久夫君）

北海道における歴史的建造物（築 50 年以上経過した建築物）の悉皆調査は『建造物緊急保存調査報告書』（1972）『日本近代建築総覧』（1980）『総覧日本の建築第 1 巻 / 北海道・東北』（1986）『北海道の近世社寺建築』（1989）をはじめ、『小樽の建築探訪』（1995）・『函館の建築探訪』（1997）・『札幌の建築探訪』（1998）・『旭川と道北の建築探訪』（2000）と行われているが、これらを網羅しながらの追跡調査は行われず、被災状況の把握や遺構の有無そのものの確認も十分に行われていない。建築歴史・意匠本委員会は、1995 年神戸大災害を教訓として歴史的建造物リストの DB 化をめざし『歴史的建築リスト整備活用小委員会』を発足させ整備に努めているが、北海道支部歴史意匠専門委員会としても、遺構の有無の確認をはじめ、地域住民や地方公共団体と連携して保存活用を図るためにも、基本台帳整備と、近代建築における和風意匠の影響を視点とする調査研究が必要である。

旧軍施設研究委員会（主査：川島 洋一君）

道内の現存する旧軍施設に関する研究を行う。これまで、当委員会は旧軍施設に関する資料収集に取り組むとともに、主に木造兵舎の調査・研究を行い、旧軍独自の小屋組組織を解明してきた。今回はさらに研究対象を組積造及び RC 造に広げ近代建築発展の一端を担った諸施設に光を当てる。初年度はこれまで研究報告が皆無であった太平洋戦争末期に旧日本陸軍が十勝沖に建設した水際陣地（以下トーチカ）を中心に踏査し、建築学的側面からその実態を把握する。また、2 年目以降は旭川・美幌に各々現存する煉瓦造施設、及び鉄筋コンクリート造施設について研究の対象を広げる。なお、初年度の研究については、終戦時の破壊や開発行為から免れたトーチカも自然現象における風化や海岸浸食により失われつつあり、平成 15 年に発生した十勝沖地震による被害も懸念される状況から、可及的すみやかに調査研究に着手する必要があると考えられた。最後に、昨今、平和の尊さを後世に語り継ぐ教育教材として戦跡保存が全国的に望まれていることから、本研究が建築分野に留まらず社会教育上にも資するところが大きいことを付け加えておく。

4.4 本部からの支部助成金による研究委員会

(2003 年度より)

有珠山防災まちづくり計画研究委員会（主査：岡田 成幸君 構成委員数 8 名、委員会開催予定数 3 回）

（活動予定）

2000 年有珠山噴火を契機に有珠山周辺地域の長期的なまちづくりを進めるために、土地利用計画にもとづく住宅移転支援策の方針が打ち出された。本研究は、有珠山周辺地域を対象として災害危険区域の土地利用計画手法として住宅の移転策という新たな防災対策手法の有効性や防災

まちづくり計画のあり方について考察を行う。

(研究方法)

- (1) 火山災害による建物被害評価
GISマップの作成による建物被害評価
- (2) 住宅移転支援策とコミュニティ形成
住民意向把握及び合意形成手法による計画案の検討
- (3) 火山災害を軽減するための防災まちづくり計画
移転支援策の被害軽減効果分析による防災まちづくり計画の検討

(成果の予定)

- 火山災害による建築被害評価による建築防災計画手法
- 火山災害周辺地域の住宅移転支援策に係る合意形成手法
- 土地利用ゾーニングによる施設計画手法

5. 支部研究発表会の活動

5.1 支部研究発表実行委員会(主査:角 幸博君 委員数 18名 委員会開催予定数 7回)

2004年度の委員任期としては、2003年6月30日(第76回研究発表会(北総研))翌日~2004年7月31日である。したがって、2004年度の第77回発表会実施へ向けての委員会活動はすでに開始されている。

- 1) 委員会開催数: これまでに4回(2003年10月24日、11月12日、2004年1月27日、4月8日)開催
- 2) 議事: 研究発表会開催会場、期日、特別企画の議論及び、原稿執筆要領、原稿用紙書式、発表申込書の検討、支部HP上への公開。
- 3) 支部研究発表会の開催予定
原稿提出締切: 2004年4月21日(水)12時支部事務局必着
開催期日: 2004年7月3日(土)
会場: 札幌市立高等専門学校(札幌)
9:30~15:30 研究報告会
15:30~17:30 特別企画「上遠野徹の住宅 北海道における住宅史的意義と住宅設計の展開に向けて」
原稿募集の会告記事を、建築雑誌2004年1月号~3月号及び支部HPへ掲載。

6. 表彰

6.1 北海道建築賞

(1) 賞の概要

建築作品をささえる「先進性」、「規範性」、「洗練度」の3つの視点から視察、議論を通して選考し、北海道建築賞の表彰を行い、より一層の建築創作活動の促進を図る。

(2) 北海道建築賞委員会の実施

上記の方針で委員会を実施する。

6.2 卒業設計優秀作品(日本建築学会北海道支部賞)

(1) 賞の概要

大学・短大・高専・専門学校の卒業設計優秀作品の表彰を行い、北海道地域の文化、

建築教育の向上を図る。

(2) 卒業設計優秀作品審査委員会の実施

2004年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、2003年度と同様、2004年度卒業設計作品について「大学」、「短大・高専・専門学校」、「工業高校」の分野別に、優秀作品審査会を実施し、各部門、金、銀、銅、各賞を選出する。

また、講評の論点を確認し、各選出作品の講評を行う。

審査員：

主 査：渡邊 広明君

委 員：上遠野 克君、加藤 誠君、小西 仁彦君、齋藤 徹君、中山 眞琴君

6.3 優秀学生・生徒（日本建築学会北海道支部賞）

大学・短大・高専・工高の優秀学生・生徒の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

6.4 日本建築学会北海道支部功労賞

表彰は、表彰内容や実施に向けての検討期間がさらに必要であることと表彰詳細を詰める必要があるため、2004年度総会以降に開始することとする。表彰時期は、支部総会時または臨時に行われる行事の場においても必要に応じ随時実施してゆく。

7. 建築作品発表会の実施（主査：小篠 隆生君 委員数3名 実行委員10名 委員会予定開催数6回（実行委員会2回を含む））

2004年度の目標は、発表の質の向上、学会の他の建築作品関連の委員会との連動の可能性検討である。年に一度の北海道における建築作品の発表の場というのが建築作品発表会の使命であることから、北海道建築賞受賞作品についても発表の場を提供しようという試みである。これについては、スケジュールの問題もあることから、今年度は可能性の検討に留まるかもしれないが、実施できることから始めていければよいと考える。このことにより、設計者あるいは、学生が主であった従来の参加者の幅をその枠にとどまらず、発注者、利用者、あるいは、一般市民の参加を促してゆくことができればさらに学会の事業にふさわしくなると思われる。いずれにしても、北海道の建築の状況を俯瞰できる唯一の機会として存在するこの作品発表会を、昨年度までの良い部分は継続しながら、よりいっそう社会化するための取り組みを組み込むことを今年の目標としたい。

作品の応募時期：7月下旬～8月下旬

作品発表会開催時期：10月下旬～11月初旬の中の1日間

作品発表会開催場所：道立近代美術館講堂（予定）

8. 特別委員会の活動

8.1 事業主査連絡会（事業系5委員会の主査、活性化委員会事業企画部会担当常議員 予定開催数：複数回）

事業系5委員会と意思決定機関である常議員会との情報交換を密にし、事業内容の充実と効率化、魅力ある事業企画実施のため、2004年度も引き続き、活動状況、予算執行状況、活動内容と予算計画などに関して検討を行う。また、活性化委員会と連携し、支部活動見直し議論に取り組む。

8.2 総務委員会（主査：後藤 康明君 委員数 5 名 予定開催数 2 回）

本委員会の目的である北海道支部事務局運営の健全性を維持するために、適時委員会を開催し財務管理・事務局業務管理について検討する。昨今の経済状況により支部の財政状況がさらに悪化していることから、各事業に対して早めの詳細予算策定及び事業終了後の決算報告についての提出を厳格にして、見通しのある財務管理を進める予定である。また、今年度は全国大会の担当支部であることから、特別会計についても管理を行う。さらに、事務局業務の効率化、会議室の有効利用についても適宜検討を継続的に行っていく。また、日本建築家協会北海道支部との合同事務所の運営、合同企画についても検討を行う。

8.3 活性化委員会（支部長、常議員）

本委員会は、支部活動のあり方・事業の活性化のための対策などの関して議論することを目的として、2001 年度に設置された。2004 年度においては、学術委員会活動と事業活動の今後の方向性について、支部財政の見通しを踏まえて集中的に議論・検討を行う。そのため、当委員会の部会構成や委員構成の変更の必要性を含めて、事業主査連絡会と常議員会との連携を強化する。

8.4 ホームページ管理委員会（主査：高橋 章弘君）

本委員会は当支部のホームページを維持・管理することを目的とする。2004 年度は会員間の情報の共有をすすめるとともに広く支部の活動を PR するため、委員会活動状況、及び各種事業の案内・成果等を迅速に広めるなど、内容の充実を図る。

9. 講習会・シンポジウム等の開催

本部主催による講習会・講演会のほか、地域の要請にこたえる各種の講演・講習会を、工業高校・自治体及び関連諸団体等の協力を得て複数の地域で企画実施する。

9.1 本部主催講習会

2004 年度本部主催支部共通事業講習会を開催する。

9.2 講演会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

9.3 展示会

支部卒業設計優秀作品を学会支部ホームページにて公開する。また、全国大学・高専卒業設計優秀作品巡回展ならびに道内工高卒業設計優秀作品巡回展を実施する。

9.4 見学会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

10. 本部関連事業・その他

10.1 2004 年度支部共通事業設計競技の実施（主査：藤島 喬君 委員数 5 名 委員会開催予定数 1 回）

2004 年度の支部共通事業設計競技委員会の支部審査委員は、昨年同様、川人洋志、小西彦仁、柳田良造、山之内裕一、藤島喬の 5 名で構成する予定である。委員会開催数は例年通り 1 回を予定しているが、応募作品数及び内容によっては改めて判断したい。

本年度の課題は「建築の転生、都市の転生」であり、例年応募数の少ない北海道支部として、何とか参加を呼びかける努力をしたいと思っている。

10.2 作品選集支部選考部会（主査：山田 深君 委員数 9 名）

2004 年度も、7 月から 8 月にかけて部会を開催予定である。「作品選集」掲載数はその総数が 100 題以内と決まっているため、各支部から本部委員会への推薦数は、支部への応募数に応じて決定されている。つまり支部への応募数が多いほど、本部への推薦枠が多く獲得できるわけである。2004 年度は、支部会員にさらに周知徹底を図ることで、質の高い作品がより多く応募されるものとした。

10.3 建築文化週間

グループセミナーなどを通して地域との研究交流を深め、また建築文化週間などの文化事業を通じて、開かれた学会として社会に対する文化活動の推進を図る。本年度予定している文化関連事業は、以下の 1 件を予定している。

1) 「日本最北の歴史的建造物とまちづくり - 建築・景観発見の旅 - 」

（歴史意匠専門委員会 責任者：羽深 久夫君）

11. 建築関連団体との活動

11.1 AIJ-JIA 合同委員会（運営委員、企画委員会）

引き続き合同運営委員会では、合同事務所の運営についてこの 3 年間の反省事項を明らかにして改善すべき点を洗い出し、継続的に協議を行う。3 年経過したので、恒常的な問題点を明らかにして、改善点は早急に検討を行う予定である。合同企画委員会では、これまで通り合同の企画の立案・運営を行い、能力開発支援制度(CPD)についても継続的に協議を行う。また、昨年度同様に両団体の関連行事などの企画について継続的な話し合いの場とする予定である。

11.2 北海道建築設計会議

参加団体が 8 会に拡大された本会議では、本年度に CPD の共同化や共同プログラムに関する継続協議や実行を予定している。支部は他の参加団体と積極的に連携を図り、本会議の発展と拡充に努める。

12. 2004 年度日本建築学会北海道大会

2004 年度大会実行委員会（委員長：城 攻君 委員数 67 名（大会委員会 36 名[重複分 21 名を含む]） 委員会開催予定数 5 回(他、部会多数) 大会委員会 1 回)

8 月末に開催される全国大会に向けて、総務、経理、学術・会場、行事、懇親会の各部会で詳細にわたる検討を行い、毎月 1 回行われる実行委員会で全体の調整・確認を行う予定である。また、5 月中旬に大会委員会を開催し、顧問の方々に北海道大会の行事・企画及び予算の説明を行う。大会テーマを「ささえる」とし、会員をはじめ一般市民を対象とした下記の諸行事を予定している。

大会の成功に向けて、北海道支部会員のご協力をお願いする次第である。大会に関する最新の情報は、常に大会 URL または会告にて紹介している。

大会 URL(<http://news-sv.aij.or.jp/taikai/s1/>)

2004 年度日本建築学会大会（北海道）の概要

会期：2004 年 8 月 29 日（日）～8 月 31 日（火） 会場：北海道大学（札幌市北区北 13 西 8）
メインテーマ：ささえる

1. 記念行事（一般公開）

- 1) 記念講演会シンポジウム・札幌：「ささえる - 建築の新たな役割と地平を展望する」
日時：8 月 28 日（土）13：00～17：00 会場：共済ホール（札幌市中央区北 4 西 1）
- 2) 連続トーク：「ささえる - 建築の新たな役割 人・建築・地域」
日時：8 月 29 日（日）～8 月 31 日（火）午後 3 時間程度 会場：遠友学舎 北海道大学構内
- 3) 記念シンポジウム・釧路：「ささえる - まちの安全 Disaster Imagination Game」
日時：8 月 20 日（金）12:45～17：15 会場：まなぼつと幣舞
- 4) 記念シンポジウム・旭川：「ささえる - まちとくらし」
日時：8 月 22 日（日） 会場：旭川市内（会場未定）
- 5) 特別シンポジウム 札幌：「あすの地域・都市環境の再生をささえる - 都市と大学の連携をデザインする」
日時：8 月 27 日（金）13：00～17：00 会場：共済ホール（札幌市中央区北 4 西 1）
- 6) 技術セミナー・札幌 「ささえる - ストック活用の建築技術」
日時：9 月 1 日（水） 時間・場所：AM. 学術交流会館
2. 開会式 日時：8 月 29 日（日）9:00～9:15 会場：北海道大学工学部 B21 室
3. 閉会式 日時：8 月 31 日（火）17:00～17:15 会場：北海道大学工学部 B21 室
4. 研究協議会 / 研究懇談会 / パネルディスカッション
8 月 29 日（日）～8 月 31 日（火） 会場：北海道大学
5. 日本建築学会設計競技「建築の転生・都市の転生」・公開審査
日時：8 月 29 日（日）10:00～15:00 会場：北海道大学学術交流会館 第 1 会議室
6. 日本建築学会「都市建築の発展と制御に関する論文」入選表彰式
日時：8 月 29 日（日）9:15～9:30 会場：北海道大学工学部 B21 室
7. 日本建築学会設計競技「建築の転生・都市の転生」（全国入選）表彰式
日時：8 月 29 日（日）16:15～17:15 会場：北海道大学学術交流会館 小講堂
8. 日本建築学会技術部門設計競技 表彰式（課題：ユビキタス・ネットワーク技術）
日時：8 月 29 日（日）13:00～13:30 会場：北海道大学学術交流会館 小講堂
9. 日本建築学会奨励賞贈呈式（優秀卒業論文賞・優秀修士論文賞表彰式）
日時：8 月 29 日（日）15:00～16:10 会場：北海道大学学術交流会館 講堂
10. 建築作品展（2004 年日本建築学会賞（作品・技術・業績）、2004 年日本建築学会作品選奨、2003 年度日本建築学会設計競技全国入選作品、2004 年日本建築学会技術部門設計競技入選作品、2004 年日本建築学会優秀卒業論文・優秀修士論文、2004 年度支部共通事業 全国大学・高専卒業設計展示会）
日時：8 月 29 日（日）～8 月 31 日（火） 9：30～18：00 会場：北海道大学学術交流会館
11. 大会懇親会（有料）
日時：8 月 29 日（日）18：00～20：00 会場：サッポロビール園ポプラ館（札幌市東区北 7 条東 9 丁目）
会費：一般会員 5,000 円（税込） 大学院学生・学部学生 3,000 円（税込）
12. 見学会 近代産業遺産（赤平・美唄・三笠）
日時：9 月 1 日（水）参加費：6,000 円（税込）場所：JR 札幌駅北口 鐘の広場集合 受付 8:00
13. 北海道大学行事
 - 1) 近代大学施設の原図+実測図展 期間：7 月～8 月 10：00～17：00 会場：北海道大学総合博物館
 - 2) モデルバーン一般公開 期間：8 月 29 日（日）～8 月 31 日（火）9：30～17：00 北海道大学内
14. 関連行事

1) 建築 MAP パネル展

期間：8月29日(日)～8月31日(火) 9:00～17:00 場所：JR 札幌駅コンコース(西)

2) 八窓庵内部・豊平館小屋裏の一般公開

期間：8月29日(日)～8月31日(火) 9:00～16:00 場所：札幌市中央区中島公園 1

15. 付随行事

1) 第19回懇親ゴルフ大会

日時：8月28日(土) スタート 12:00 場所：札幌エルムカントリークラブ(西) コース

2) 第19回懇親テニス大会

日時：9月1日(水) 開会 9:00 場所：アルファトナム内関係施設

2004 年度収支予算案

日本建築学会北海道支部

収入の部				支出の部					
項目	予算額	前年度	増減	項目	予算額	前年度	増減		
	12,637,000	7,183,000	5,454,000		4,855,000	4,990,000	-135,000		
交付金	支部費	1,518,000	1,504,000	14,000	事業費	調査研究事業費	800,000	830,000	-30,000
	経営助成金	2,700,000	2,760,000	-60,000		表彰関係費	725,000	780,000	-55,000
	事業交付金	1,030,000	1,030,000	0		設計競技費	40,000	40,000	0
	大会交付金	5,500,000	0	5,500,000		卒業設計展示費	40,000	40,000	0
	支部事務所費	1,589,000	1,589,000	0		教育文化事業費	300,000	500,000	-200,000
	事務費	300,000	300,000	0		シホシム等経費	2,950,000	2,800,000	150,000
				委託調査研究費		0	0	0	
				特別事業費		5,980,000	380,000	5,600,000	
				大会事業費		5,500,000	0	5,500,000	
				特別企画事業費		480,000	380,000	100,000	
	3,155,000	3,055,000	100,000		370,000	265,000	105,000		
副次収入	シホシム収入	2,550,000	2,400,000	150,000	会議費	総会費	175,000	180,000	-5,000
	調査研究受託収入	0	0	0		役員会費	70,000	70,000	0
	雑収入	600,000	650,000	-50,000		運営費	125,000	15,000	110,000
	収入利息	5,000	5,000	0					
	1,156,098	1,277,385	-121,287		5,360,000	5,440,000	-80,000		
繰入金	前期繰越金	676,098	897,385	-221,287	事務費	人件費	2,040,000	2,100,000	-60,000
	基金取崩金	480,000	380,000	100,000		通信費	300,000	300,000	0
						印刷費	50,000	20,000	30,000
						消耗品費	100,000	150,000	-50,000
						雑費	600,000	600,000	0
						事務所費	2,270,000	2,270,000	0
				予備金	383,098	440,385	-57,287		
				予備金	383,098	440,385	-57,287		
				基金積立金	0	0	0		
合計	16,948,098	11,515,385	5,432,713	合計	16,948,098	11,515,385	5,432,713		

基金・積立金内訳

2003年度末		2004年度末	
支部基金	3,010,000	支部基金	3,010,000
災害調査研究基金	1,730,000	災害調査研究基金	1,630,000
学術振興基金	3,840,000	学術振興基金	3,460,000
職員退職積立金	180,000	職員退職積立金	240,000

北海道支部地域法人正会員・賛助会員名簿
法人正会員

2004年3月末現在

会員番号	口数	会員社名・団体名	会員番号	口数	会員社名・団体名
00502 -83	1	荒井建設㈱	00547 -58	2	戸田建設㈱
00503 -64	1	伊藤組土建㈱	00552 -83	2	飛鳥建設㈱
00505 -34	2	岩倉建設㈱	00553 -56	1	巴コ・ボレ・シヨン
00505 -50	2	岩田建設㈱	00557 -04	1	日鐵セメント㈱
00512 -71	1	㈱大林組 札幌支店建築工務部	00614 -45	1	日本データサービス㈱
00512 -89	3	大林組	00555 -50	1	西松建設㈱
00512 -97	1	大林組	00560 -51	1	日本設計
00515 -72	1	岡田設計	00561 -82	1	日本防水総業
00617 -89	1	画工房	00573 -66	1	㈱三菱地所設計
00567 -92	2	北電興業	00625 -81	1	アトリエ・アク
00585 -32	1	加藤組土建 総務部総務課	00586 -89	1	北農設計センター
00517 -00	5	鹿島建設㈱	00597 -74	1	㈱総研設計
00519 -38	1	上遠野建築事務所	00565 -64	1	フジタ
00611 -61	1	曾澤高圧コンクリート技術部	00584 -43	1	萩原建設工業 建築部
00614 -38	1	㈱ホーム企画センター - 総務部	00616 -32	1	北方住文化研究所
00523 -82	1	熊谷組	00568 -07	1	㈱ドーコン
00530 -03	1	札幌日総建	00618 -60	1	北海道建築設計監理㈱
00568 -23	2	北海道日建設計	00568 -15	2	北海道コンクリート工業
00673 -45	1	桜井鉄鋼	00531 -84	1	清水建設㈱
00571 -46	3	丸彦渡辺建設㈱	00538 -83	2	田中組
00540 -41	5	大成建設㈱	00545 -54	3	地崎工業
00575 -10	1	宮坂建設工業	00674 -50	1	㈱中原建築設計事務所
00544 -49	2	竹中工務店	00674 -76	1	㈱間組 札幌支店建築部

法人正会員・賛助会員

会員番号	口数	会員社名・団体名	会員番号	口数	会員社名・団体名
00577 -80	1	吉田建築設計事務所	00814 -70	3	北海道電力㈱
00650 -00	1	松村組札幌支店	00810 -06	1	道都大学図書館
00656 -02	1	坂本建設㈱	00813 -49	1	㈱NTT ファシリティーズ
00645 -91	1	豊平製鋼㈱			北海道支店営業推進部
00651 -49	1	アイエイ研究所	00815 -01	1	北海学園大学 図書館
00651 -65	1	北文創	00815 -19	1	北海道中央工学院専門学校
00651 -99	1	國枝千秋建築設計事務所			
00652 -54	1	新太平洋建設㈱			
00659 -11	1	㈱都市設計研究所			
00662 -76	1	㈱松原組一級建築士事務所			
00666 -08	1	光道路サースビス㈱ 構造計算課			
00674 -84	1	五洋建設㈱ 札幌支店			
00549 -52	1	東急建設㈱ 札幌支店			
00683 -75	1	三和シャッター工業 北海道ビル建材支店			
00684 -22	1	㈱北海道サンキット			
00684 -14	1	㈱三咲プレコンシステム			
00685 -29	1	不二サッシ㈱ 北海道支店			
00697 -87	1	夢創計画室			
00704 -45	1	アトリエ・ブク			
00704 -09	2	北海道建築指導センター			
00708 -51	2	北海道旅客鉄道㈱			
00709 -08	1	S.E.T.Linx			
00701 -51	1	(株)INA 新建築研究所札幌支社			
00710 -77	1	(株)久米設計札幌支社			

社団法人 日本建築学会北海道支部
〒060-0042 札幌市中央区大通西7丁目2
ダイヤビル 2階
TEL 011-219-0702 FAX 011-219-0765
E-mail: aij-hkd@themis.ocn.ne.jp
<http://news-sv.aij.or.jp/hokkaido/>